

コスタ・リカ共和国
第三国集団研修終了時評価報告書
～麻薬犯罪防止～

平成9年11月
(1997年11月)

JICA LIBRARY



J 1142358 (9)

国際協力事業団
研修事業部

研 二

J R

97-21

コスタ・リカ共和国
第三国集団研修終了時評価報告書
～麻薬犯罪防止～

平成9年11月
(1997年11月)

国際協力事業団
研修事業部



1142358 [9]

序 文

第三国集団研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤を持つ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の開発途上国からの研修員を受け入れ、現地の事情に適合した知識・技術の移転を図り、これにより開発途上国間協力の推進に寄与し、将来、研修実施国が独自に研修員受入事業を実施できるよう協力することを目的としています。

本報告書は、平成5年度からコスタ・リカで実施された「麻薬犯罪防止」の総合的な評価を実施するため、国際協力事業団が平成9年8月6日から8月17日まで派遣した終了時評価調査団の調査結果を取りまとめたものです。

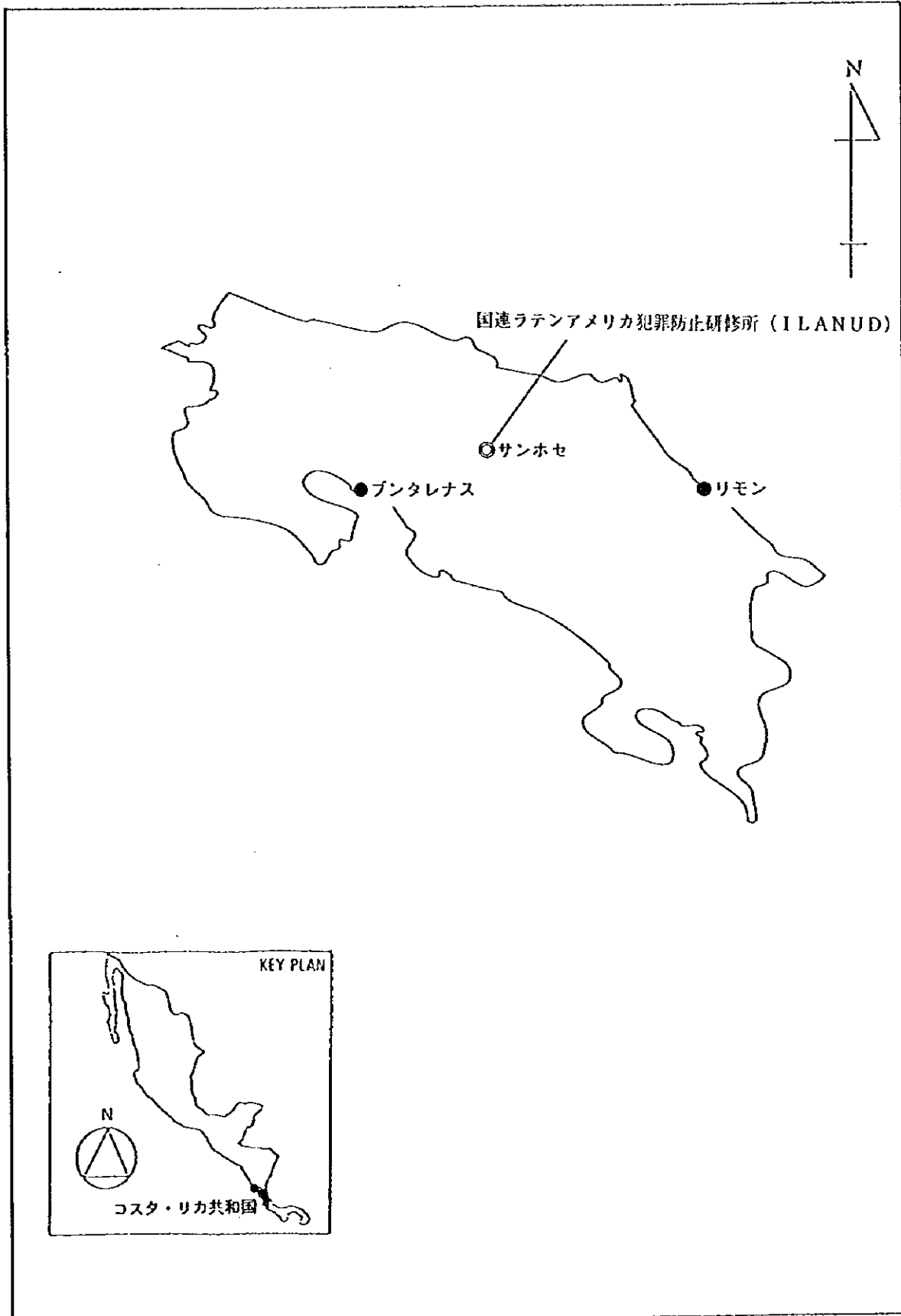
本報告書が関係各位のさらに深いご理解のもとに、第三国集団研修の今後のよりよい展開に資することができれば幸いです。

最後に、本調査団の派遣に際し、ご協力を賜った外務省、法務省、アジア極東犯罪防止研修所、在コスタ・リカ日本国大使館等関係機関に対し、深い謝意を表する次第です。

平成9年11月

国際協力事業団
理事 飯島 正孝

プロジェクト位置図

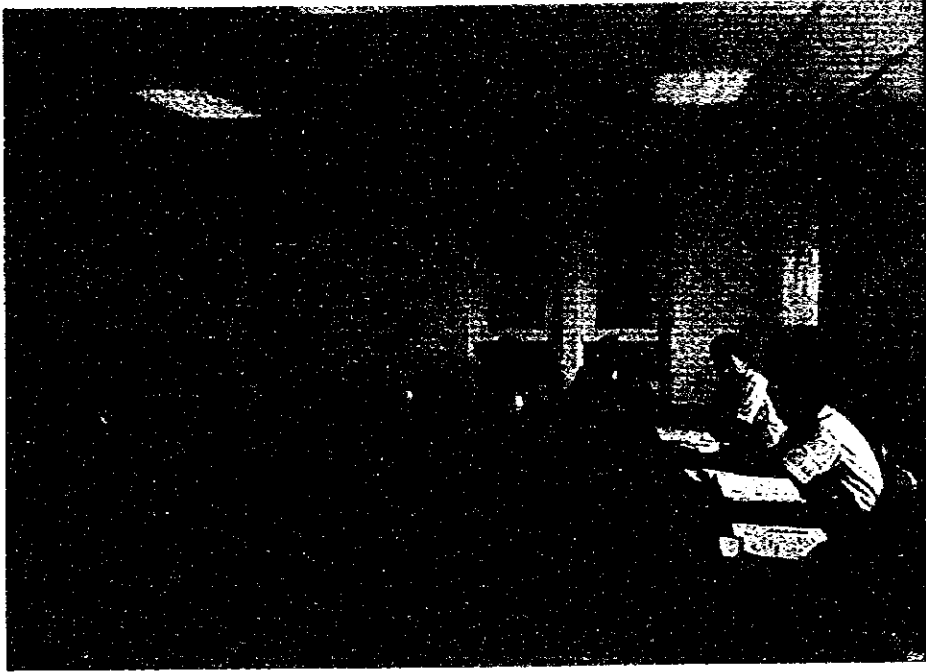




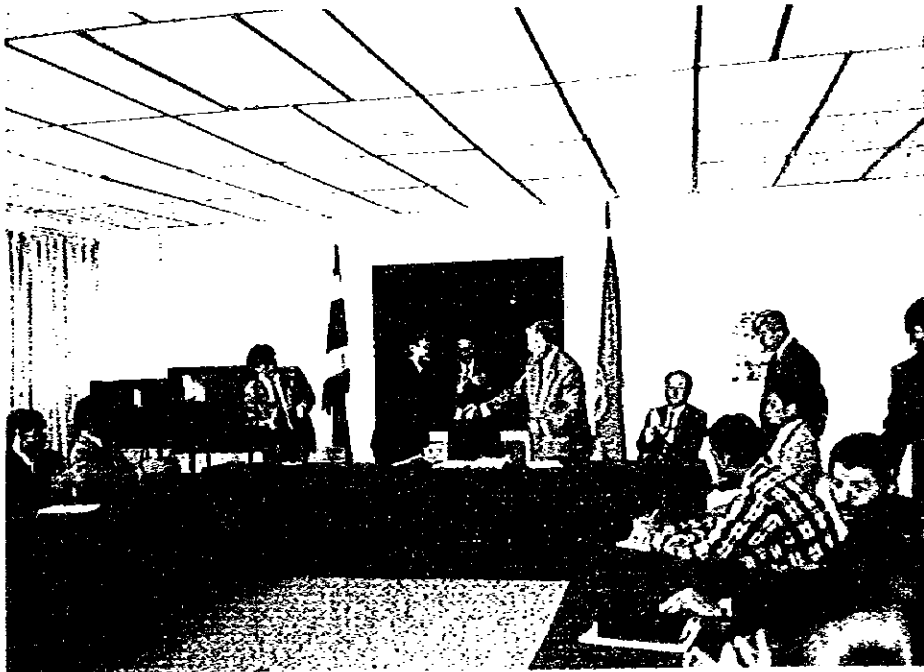
▲1997年度第三国研修全体討議（於：ホテル コロビシ）



▲ILANUD関係者との協議



▲掃国研修員とのインタビュー



▲ミニッツ交換（藤原団長、ゴルドニ法務次官、
パリスILANUD所長）

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 序文 | |
| プロジェクト位置図 | |
| 写真 | |
| 第1章 終了時評価調査団の派遣 | 1 |
| 1-1 派遣の経緯と目的 | 1 |
| 1-2 調査団の構成 | 1 |
| 1-3 調査日程 | 2 |
| 1-4 主要面談者 | 3 |
| 第2章 研修概要と実績 | 4 |
| 2-1 研修概要 | 4 |
| 2-2 研修実績 | 6 |
| 第3章 評価結果 | 9 |
| 3-1 評価項目・方法 | 9 |
| 3-2 目標達成度 | 9 |
| 3-3 研修実施体制 | 14 |
| 3-4 当初計画の妥当性 | 16 |
| 第4章 総合評価 | 19 |
| 資料 | |
| 1 ミニッツ | 23 |
| 2 1997年度実施経費精算表 | 38 |
| 3 研修受講者アンケート結果概要 | 39 |
| (1)アンケート用紙 | 40 |
| (2)アンケート国別・年度別回収結果 | 48 |
| (3)アンケート結果一覧表 | 49 |
| 4 第三国集団研修終了時評価シート | 53 |
| 5 第1フェーズ実施概要 | 58 |

第1章 終了時評価調査団の派遣

1-1 派遣の経緯と目的

ラテンアメリカおよびカリブ地域においては、薬物汚染が深刻化しているとともに、同地域内諸国が米国その他の先進国に対する薬物供給国となっている現状に鑑み、同地域の薬物乱用および不正取引の取り締りおよび防止の必要性が高い状況下にあった。

わが国は、コスタ・リカ政府からの要請に基づき、1988年4月コンタクト調査、同年7月実施協議調査を行い、同年度から5年間（年1回）、コスタ・リカの首都サン・ホセに所在する国連ラテンアメリカ犯罪防止研修所(Instituto Latinoamericano de Naciones Unidas para la Prevencion del Delito y Tratamiento del Delincuente: I L A N U D)において域内諸国の薬物問題担当者を対象に第三国集団研修を実施する旨の討議議事録(R/D)が署名・交換された。その後、コスタ・リカ政府からの延長要請を受け、1993年度からさらに5年間協力期間を延長する旨のR/Dが署名・交換され、1997年度までの予定で協力を実施してきた。

1997年度は本研修の最終年度にあたるため、これまで実施した協力の内容について、当初計画に照らし、コース目標達成状況、研修効果および研修実施体制などについて評価を行うため、8月6日から8月17日まで下記メンバーによる評価調査団を派遣した。

1-2 調査団の構成

| (担当業務) | (氏名) | (所属) |
|--------|-------|-------------------|
| 団長・総括 | 藤原 藤一 | アジア極東犯罪防止研修所所長 |
| 研修評価 | 田内 正宏 | アジア極東犯罪防止研修所次長 |
| 研修評価 | 牧野 修 | 国際協力事業団国際協力専門員 |
| 計画運営 | 中井 正広 | 国際協力事業団研修事業部研修第二課 |

1-3 調査日程

| 日順 | 月日(曜日) | 調査日程 |
|----|---------|---|
| 1 | 8月6日(水) | 17:10 成田発(AA026) 21:11 マイアミ着 ※ 田内団員は、7月26日本出発 |
| 2 | 7日(木) | 11:45 マイアミ発(AA989) 12:46 サンセホ着 15:15 在コスタ・リカ日本大使館表敬 16:45 コスタ・リカ法務省表敬 20:00 研修コース修了レセプション |
| 3 | 8日(金) | 9:00 I LANUD表敬 11:00 研修修了式出席 2:00 1997年度参加研修員へのインタビュー |
| 4 | 9日(土) | 資料整理 |
| 5 | 10日(日) | 資料整理 |
| 6 | 11日(月) | 9:00~ I LANUDとの協議 17:00 |
| 7 | 12日(火) | 10:00 コスタ・リカ参加研修員へのインタビュー 2:00 I LANUDとの協議 |
| 8 | 13日(水) | 8:30 最高裁判所訪問 14:00~ミニッツ協議 17:00 |
| 9 | 14日(木) | 11:00 ミニッツ署名 15:00 在コスタ・リカ日本大使館報告 19:00 調査団主催夕食会 |
| 10 | 15日(金) | 8:25 サン・セホ発(UA888) 14:47 ロサンゼルス着 |
| 11 | 16日(土) | 13:00 ロサンゼルス発(UA897、牧野・中井) 13:15 ロサンゼルス発(NH005、藤原・田内) |
| 12 | 17日(日) | 16:05 成田着(牧野・中井) 16:25 成田着(藤原・田内) |

1-4 主要面談者

(1) 在コスタ・リカ日本大使館

| | |
|-------|-------|
| 鈴木 俊之 | 参事官 |
| 谷地 房一 | 一等書記官 |
| 鮎川 範幸 | 顧問 |

(2) コスタ・リカ法務省

| | |
|--------------|------|
| Fabian Volio | 法務大臣 |
|--------------|------|

(3) 国連ラテンアメリカ犯罪防止研修所 (ILANUD)

| | |
|------------------------|--------------|
| Rodrigo Paris-Steffens | 所長 |
| Ronald Woodbridge | 首席補佐官 |
| Danubio Castro | コースコーディネーター |
| Luis Lachner | プロジェクトディレクター |
| Mario Carvajal | 会計部長 |

(4) コスタ・リカ外務省

| | |
|--------------|-------------------|
| Alexis Arias | 国際協力室アジア班コーディネーター |
|--------------|-------------------|

(5) コスタ・リカ帰国研修員 (参加年度/所属)

| | |
|----------------------|-----------------------|
| Dunia Chacon | (1993年度/最高裁判所裁判官) |
| Manuel Molina Brenes | (1993、1995年度/司法省心理学者) |
| Jorge Mario Roldan | (1994年度/最高裁判所法医学課長) |
| Mario Saenz Rojas | (1994年度/司法省心理学者) |
| Denia Nunez Guerrero | (1994年度/司法省心理学者) |
| Juan Loria Martinez | (1995年度/司法研究所司法補佐官) |

第2章 研修概要と実績

2-1 研修概要

本研修は、当初、1988年度から5年間実施された後、コスタ・リカ政府からの延長要請を受け、1994年1月にR/Dの延長署名がなされ、1997年度までさらに5年間実施されることになった〔第1フェーズの実施概要は資料5（58ページ）参照〕。

第1フェーズからの変更事項は、割当国が6カ国増加された点のみである。なお、1995年度からは、キューバが追加され割当国は23カ国となった。

R/Dに明記された研修概要は以下のとおりである。

(1) 協力期間

1993年度～1997年度（5年間）

(2) 研修目的

ラテンアメリカおよびカリブ諸国における薬物の生産、使用、売買、収益金の隠ぺい工作に関する問題の現状把握、理論・実践両面での防止対策の検討とあわせ、域内での効果的な解決方法の提案を行う。

(3) 到達目標

- ① 域内の薬物犯罪の現状認識
- ② 薬物問題の原因と効果的対策に必要な要因の分析
- ③ 各国の薬物問題対策の現状分析
- ④ 薬物問題とその対策に関する情報交換
- ⑤ 現実的かつ効果的対策の検討
- ⑥ 薬物問題対策の域内および国際的政策の案出

(4) 研修実施機関

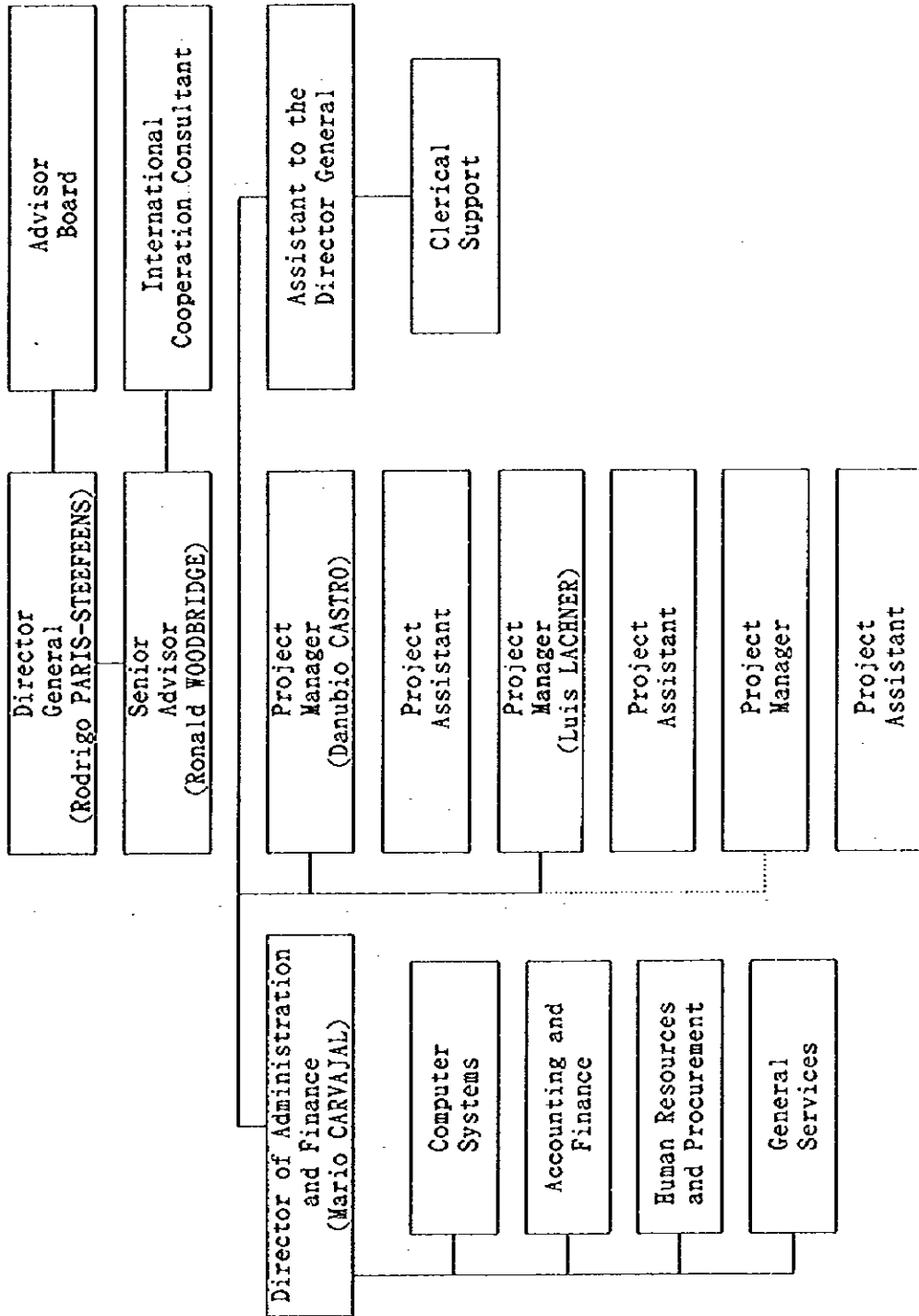
国連ラテンアメリカ犯罪防止研修所（Instituto Latinoamericano de Naciones Unidas para la Prevencion del Delito y Tratamiento del Delincuente：ILANUD）

1975年11月にコスタ・リカの首都サン・ホセに設立された国際機関である。コスタ・リカ政府から独立した組織であり、設立以来、域内諸国を対象とした多くの研修・セミナーを実施してきており、本研修以外にも1年で約20のプログラムを実施している。

ILANUDの1997年の年間予算は約578万USドルであり、本第三国集団研修が占める経費上の比率は約2%である。

現在の組織機構はパリス所長を筆頭に別紙のとおりである。（ ）内の氏名は、今回の評価調査の際、面談したスタッフである。

図1 I L A N U D 組織図



(5) 定員

22名

(6) 割当国

アルゼンティン、ポリヴィア、ブラジル、コロンビア、エクアドル、エル・サルヴァドル、グアテマラ、ホンデュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、トリニダッド・トバゴ、ヴェネズエラ、バルバドス*、パハマ*、ベリーズ*、チリ*、パナマ*、ウルグアイ*、キューバ*、以上23カ国

(注) *印の国は、本協力期間において追加割り当てされた国（キューバについては1995年度から追加）

(7) 資格・要件

- ① 各国政府から推薦された者
- ② 55歳以下の者
- ③ 大学卒または同等の学歴を有する者
- ④ 刑事司法関係者または薬物犯罪の防止やコントロールの仕事に携わる者
- ⑤ 関連分野での5年以上の実務経験がある者
- ⑥ 政策決定レベルの高官である者
- ⑦ スペイン語の会話、読み書きに堪能な者
- ⑧ 心身ともに健康な者

(8) 研修形態

約2週間のセミナー形式とし、個別発表、専門家講義、グループワーク、研修旅行、全体討議で構成されている。各回の研修ではサブテーマを設け、グループワーク、全体討議を通して参加者相互間の情報および意見交換を図るとともに、最終的には問題解決のための実務的方策に関するアクションプランを作成する。

2-2 研修実績

(1) 各回実施時期およびサブテーマ

第1回（1993年度）：1994年3月7日～3月18日

「法律・執行手続きからみた麻薬および関連犯罪」

第2回（1994年度）：1994年7月25日～8月5日

「法律・執行手続きからみた麻薬および関連犯罪」

第3回（1995年度）：1995年7月31日～8月11日

「青少年の薬物乱用防止対策および乱用者の処遇」

第4回(1996年度) : 1996年7月29日～8月9日

「検察の観点からみた薬物犯罪における証拠および国際協力」

第5回(1997年度) : 1997年7月28日～8月8日

「マネーロンダリング」

(2) 受入実績人数

ミニッツANNEX1〔資料1(33ページ)参照〕のとおり、この5年間で割当国から95名の研修員を受け入れた。また、コスタ・リカから20名の参加者があり、合計で115名の研修員を受け入れた。さらに、割当国からは、93年度には4名(グアテマラ2名、ボリヴィアおよびブラジル各1名)、1994年度には1名(チリ)が自己負担で本研修に参加した。

(3) 日本の協力実績

① 経費負担

本研修に対する経費負担の内容は、割当国研修員の受入れに関する経費(航空賃、日当、宿泊費、保険料)および研修実施に関する経費(外部講師、通訳、翻訳などの傭人費、消耗品購入費、通信費、会議費など)である。

調査団派遣時は、1997年度の研修直後であり今回の経費支出額は確定できなかったため、ミニッツでは過去4年間の負担額を明記した。

合計負担額は以下のとおりである〔詳細はミニッツANNEX2および資料2(38ページ)参照〕。

| | | |
|--------|------------|--------|
| 1993年度 | 9万5700 | U S ドル |
| 1994年度 | 9万2685 | U S ドル |
| 1995年度 | 8万0467.47 | U S ドル |
| 1996年度 | 7万9799.92 | U S ドル |
| 1997年度 | 8万1038.05 | U S ドル |
| 計 | 42万9690.44 | U S ドル |

② 専門家派遣

コスタ・リカ政府からの要請を受け、以下のとおり毎年2名の短期専門家がアジア極東犯罪防止研修所から派遣された。専門家は、本第三国研修の全期間派遣され、講義のほか、グループワークでの助言などを行った。

表1

| 年度 | 氏名 | 派遣期間 | 講義内容 |
|------|-------|------------------|-------------------------|
| 1993 | 佐々木知子 | 1994. 3. 4～ 3.22 | 薬物問題の実情と薬物乱用者処遇 |
| | 小柳 武 | 1994. 3. 4～ 3.22 | 薬物犯罪に対する国際協力 |
| 1994 | 大林 宏 | 1994. 7.19～ 8.11 | 日本の麻薬犯罪：現状と効果的対策 |
| | 荒木 龍彦 | 1994. 7.19～ 8.11 | 日本の麻薬問題と麻薬乱用者の処遇 |
| 1995 | 堀内 國広 | 1995. 7.26～ 8.14 | アジアにおける薬物犯罪とその対策 |
| | 佐伯 政子 | 1995. 7.26～ 8.14 | 日本における薬物問題と薬物乱用者の処遇 |
| 1996 | 北田 幹直 | 1996. 7.24～ 8.13 | 薬物犯罪統制と国際協力 |
| | 吉田 弘之 | 1995. 7.24～ 8.13 | 薬物犯罪対策における国際協力 |
| 1997 | 赤根 智子 | 1997. 7.26～ 8. 9 | 薬物取引、マネーロンダリングに対する効果的対策 |
| | 田内 正宏 | 1997. 7.26～ 8.17 | 薬物犯罪と収益の没収 |

(4) コスタ・リカ側 (ILANUD) の協力実績

① 経費

ILANUDは、本研修に対しコンピューター、コピー機などの機材購入費を中心に、毎年約2万USドルを負担した。

② スタッフ・講師の配置

ILANUDの職員を本研修の専属コーディネーターに任命し、3名の秘書とともにカリキュラム策定等の研修運営に従事させた。

また、本研修には、わが国が派遣した専門家以外にもコスタ・リカおよび関係諸国から当該分野の専門家を招へいし、講師として登用した（外部講師のリストは、ミニッツANNEX4参照）。

③ 研修施設

1994および1995年度はILANUDの研修施設を使用した。研修施設と宿泊ホテルの移動に時間がかかり、スケジュール管理に支障が生じたため、1996年度からは研修員が宿泊するホテルの会議室を使用した。

第3章 評価結果

3-1 評価項目・方法

本評価調査では、現行R/Dの協力期間（1993年度～1997年度）における研修実施状況に関し、主として下記項目について調査を行った。

- (1) コースニーズの変化
- (2) 研修目標達成度
- (3) 研修実施体制
 - ① 業務運営体制
 - ② コース運営体制
- (4) 当初計画の妥当性
 - ① 到達目標
 - ② 研修期間・時期
 - ③ 資格要件
 - ④ 定員および割当国
 - ⑤ カリキュラム
 - ⑥ 講師

評価調査に関する情報収集手段としては、調査団派遣前においては、毎年度の研修終了後に提出されるコースレポート、日本から派遣された専門家の報告書から過去のデータ、研修実施状況を取りまとめるとともに、過去4回（1993年度～1996年度）の参加研修員にアンケートを送付し、研修目標達成状況および帰国後の知識の活用普及状況などについて情報収集を行った〔アンケートの内容および回答結果などについては、資料3（39ページ）参照〕。

コスタ・リカにおいては、研修実施機関ILANUDから上記項目について協議を行ったほか、1997年度参加研修員およびコスタ・リカの過去の参加研修員とのインタビューを行った。協議結果については、ILANUDとサマリーレポートを作成し、ミニッツとして署名した。

3-2 目標達成度

(1) 研修テーマに関する知識習得状況

研修テーマに関する知識習得状況との関係では、業務問題とその対策に関する現状認識、分析、情報交換などが求められている。

- ① これらの点を含め、調査団では、本研修に参加した各国の研修員に対するアンケ

ートを実施しており、延べ46名から回答が寄せられた。

そのうち、薬物犯罪の現状認識の程度については、回答数42のうち、39がvery much(+) (eおよびd)とし、ほとんどの者が薬物犯罪の現状認識に資するところが大きであったと回答している。

また、薬物問題の原因の分析の程度については、回答数46のうち、37がvery much(+) (eおよびd)として8割以上の者が原因分析において大きく役立った旨回答している。

同様に、各国の薬物問題対策の現状分析の程度については、回答数42のうち、38がvery much(+) (eおよびd)として9割の者が薬物問題対策の現状の分析において大きく役立った旨回答している。

さらに、薬物問題とその対策に関する情報交換の程度については、回答数43のうち、35がvery much(+) (eおよびd)として8割を超える者が薬物問題とその対策に関する情報交換において大きく役立った旨回答している。

② また、今回の調査においては、1993年度から1996年度までのコスタ・リカからの研修参加者6名および1997年度の各国からの研修参加者26名に対するインタビューを行った。その結果、次のような意見が出された。

- ・ 裁判官として薬物犯罪についての知識が少なかったが、本研修に参加することにより、米国大陸の南から北までのさまざまな国における薬物犯罪の現況を知ることができ、広い視野を持って裁判に臨むことができ、自信がついた（コスタ・リカ）。
- ・ 心理学者としての視野が広がり、薬物犯罪の法的な側面を理解できた。同じ立場の人との意見交換が大きな効果を持った（コスタ・リカ）。
- ・ 南米全域が悩んでいる問題について、意見交換ができ、薬物犯罪の現況を知ることができたことは大きな効果があった（コスタ・リカ）。
- ・ 薬物の消費、流通の状況を含め、薬物問題について知識・経験のなかったことを知ることができた（コスタ・リカ）。
- ・ 法律家、心理学者、医者などの広い範囲の人たちから情報を得ることができた（コスタ・リカ）。
- ・ 薬物犯罪に関する特殊な捜査技術、捜査方法、捜査体制などを学ぶことができた。（ホンデュラス）。
- ・ 薬物取引やマネーロンダリングに関する情報、およびこれらに対する法制についての知識を得、視野を広げることができた（バハマ、バルバドス、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、トリニダッド・トバゴ、メキシコ、ペルー、チリ）。

インタビューに答えた各研修参加者は、いずれも、域内各国の薬物問題は、非常

に深刻な状況にあるにもかかわらず、情報交換の場が少ない現状にあることを指摘したうえ、本研修において、専門家の講義、各国参加者の発表、グループワークなどを通じ、域内各国の薬物問題の現状および原因、ならびにその対策に関する情報を交換し、薬物犯罪に関する多くの情報・知識を得ることができ、また、薬物問題に関する対策の分析・認識を深めることにより、各参加者の視野が広がり、きわめて有益であったとの点で一致した。

③ 本研修の実施機関である I L A N U D 側も、研修に参加したラテンアメリカおよびカリブ海諸国の薬物犯罪対策官が、地域内各国で抱えてきた薬物問題を比較して各国の状況を把握することができ、捜査技術、取締法制などに関する新しい技術の提示、移転が行われたことを評価している。

④ これらアンケート結果、インタビューの結果などを総合すると、本結果の参加者は、専門家の講義、各国参加者の発表、グループワークなどを通じ、地域内各国の薬物問題の現状および原因ならびにその対策に関する情報を交換し、薬物犯罪に関する多くの情報・知識を得ることができ、また、薬物問題に関する対策の分析・認識を深めることにより、各参加者の視野を広げることができたものと認められ、評価することができる。

(2) 研修成果の活用普及状況

知識習得に次いで本研修は、下記を目標としている。

- ・現実的かつ効果的対策の検討
- ・薬物問題対策の域内および国際的政策の案出

① 調査団が実施した1993年度から1996年度までの参加者に対するアンケートによると、研修で取得した知識の活用状況について、回答数42のうち、38がYESとして、9割を超える者が取得知識の活用を行っている旨回答している。さらにその活用内容については（複数回答）、i) 実現可能な効果的対策の策定促進を行っているとする者が14、ii) 麻薬犯罪に関する域内および国際協力の戦略策定を行っているとする者が11、iii) その他が13となっている。

また、研修で取得した知識の普及状況について、回答数31のうち、31が知識の普及を行っており、その方法は（複数回答）、i) 同僚への知識伝達27、ii) 所属機関への報告23、iii) 他の関係機関への講義など14、iv) 出版物製作が13、v) その他7となっている。なお、出版物製作ありと答えた者の内訳は、コスタ・リカ3、ジャマイカ2、バルバドス2、ドミニカ共和国1、ホンデュラス1、パナマ1、アルゼンティン1、ウルグアイ1、ブラジル1となっている。

他方、研修で取得した知識の活用・普及にあたって、障害があるかとの質問に対

しては、回答数43のうち、18が何らかの障害があると答えており、その内訳は、
i) 訓練された人材不足7、ii) 施設の不足3、iii) 予算の不足12、iv) その他4
となっている。

- ② また、これまでの参加者に対して調査団の実施したインタビューにおいては、
- ・研修において習得した知識・情報を裁判所の同僚に報告し、また裁判をする際に活用している（コスタ・リカ）。
 - ・研修において習得した薬物犯罪の現況を踏まえて、薬物犯罪の防止に活用している（コスタ・リカ）。
 - ・研修において習得した知識・情報を大学の講義で話している（コスタ・リカ）。
 - ・銀行の疑わしい取引の調査において知識を活用している（コスタ・リカ）。
 - ・各国各機関の薬物担当者とのつながりができ、迅速な情報交換のネットワークができた（コロンビア、コスタ・リカ、ドミニカ共和国、エクアドル）。
 - ・研修において習得した知識・情報をもとに、マネーロンダリングに関する法律案を提案し、起草する（バルバドス、トリニダッド・トバゴ、グアテマラ、ニカラグア）。

など、知識・情報の活用・普及を積極的に行い、薬物犯罪の防止、調査、裁判などに活用するとともに、情報交換のネットワーク作りに役立っている旨の意見が出され、さらには、立法作業をする際にも積極的に活用していきたい旨の意見が出された。また、各国の法制、組織、国際取極めなどの面において、本研修のみが誘因になっているものとはいえないものの、

- ・薬物関連の法律の策定、改正、強化につながっている、またその動きがある（パナマ、エクアドル、ニカラグア、ドミニカ共和国、ペルー、チリ）。
- ・薬物に関する特別の裁判所、マネーロンダリングなどに関する特別の捜査機関、金融調査機関等の設置などがみられる（トリニダッド・トバゴ、グアテマラ、ニカラグア、チリ）。
- ・ウィーン条約加盟、捜査共助に関する二国間条約締結、中米におけるマネーロンダリングに関する条約締結など国際取極めの分野における進展がみられる（エクアドル、メキシコ、トリニダッド・トバゴ、グアテマラ、ニカラグア）。

など、各国の薬物関連法規の策定、改正、強化、組織の強化、国際取極めの締結などの動きがみられ、本研修もこれらの動きを推進する要因のひとつになっている旨の発言があった。

他方、コスタ・リカからの参加者の一部からは、

- ・研修の成果は高いが政府のなかで十分生かされていない。

- ・研修の中味が濃く、個人的には大いに効果があったが、成果が一般に広く普及しているとはいえない。
- ・研修で培われた国内外のつながりを維持できていない。

などの意見も出された。

③ I L A N U Dとの協議において、I L A N U Dからは、次のような意見が出された。すなわち、ラテンアメリカの薬物犯罪は大幅に増加するなかで、各国の捜査・訴追も効果的になされつつあり、薬物犯罪者の逮捕数も増加している。本研修参加者はいずれも各国政府の重要な地位にあり、研修の成果を各国に持ち帰ることにより、各国の薬物犯罪に対する問題意識も高まり、研修の成果を法制度や捜査技術などの面で活用して効果をあげている。特に1997年3月にはI L A N U Dが起草したマネーロンダリングに関する中米の条約が調印されているが、これも本研修が間接的に効果をあげたものといえる。同様の条約がアンデス諸国でも締結されようとしている。

④ 地域内各国の薬物関連法規の策定、改正、強化、刑事司法機関の強化、国際取極めの締結などについては、過去数年の間に大きな動きがみられる。

ことに薬物密売から生じた収益を中心としたマネーロンダリングは、地域内諸国を含め、大きな問題となっているところであるが、I L A N U Dの調査、研修での各国の発表などを総合すると、地域内23カ国のうち、マネーロンダリングを規制する法制度を有するに至った国が17カ国（アルゼンティン、バハマ、バルバドス、チリ、コロンビア、コスタ・リカ、エクアドル、エル・サルヴァドル、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、ヴェネズエラ）にのぼっており、これら法制度のない6カ国（キューバ、ホンデュラス、ブラジル、ボリヴィア、ジャマイカ、ウルグアイ）においても、法制度を新設するための法案が作成されている。さらに、すでにこれら法制度を有する国のうち6カ国（アルゼンティン、チリ、コスタ・リカ、ドミニカ共和国、グアテマラ、ヴェネズエラ）において、その改正、強化のための法案が作成されている。

また、薬物犯罪からの収益の押収については、23カ国のうち、17カ国（アルゼンティン、バハマ、バルバドス、チリ、コロンビア、コスタ・リカ、エクアドル、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、ウルグアイ、トリニダード・トバゴ、ヴェネズエラ）において、法制度が整備されるに至っており、これら法制度のない国のうち2カ国（ブラジル、グアテマラ）においても、法制度を新設するための法案が作成されている。

このほか、ラテンアメリカの諸国において、金融機関からの報告制度、捜査共助、犯罪人引渡しなどの法律・制度面での改善および薬物犯罪・マネーロンダリングを専門に調査、捜査または裁判等を行う機関の設置など、組織面での進歩がここ数年の間に顕著にみられている。

また、前述のとおり、1997年3月には、本研修実施機関であるILANUDが起草したマネーロンダリングに関する中米諸国の条約がコスタ・リカ、エル・サルヴァドル、グアテマラ、ホンデュラス、ニカラグアおよびパナマの6カ国により調印され、さらには、南米のアンデス諸国においても同様の条約の調印が検討されている。

これらの法制度、組織、国際取極めなどの分野での進展は、地域内の諸国において、薬物問題の深刻さとその効果的対策の必要性が十分認識されてきたためと考えられるが、この点に関して、ILANUDをはじめ、関係者の多くは、本研修が薬物問題の重要性の認識を深め、法制度などでの取り組みを進展させることに少なからず貢献したものと見方をしている。

- ⑤ 以上のアンケート結果、インタビュー結果、ILANUDとの協議、ILANUDの調査結果などを総合して本研修の成果の程度を勘案すると、参加研修員の各国における予算・人材・施設の制約から、政策への反映、成果の活用・普及、ネットワークの維持等が一部不十分であるところがみられるものの、おおむね、研修で取得した知識・情報の活用・普及を積極的に行い、薬物犯罪の防止、調査、裁判などに活用するとともに、情報交換のネットワーク作りに役立てられており、さらには、地域内の諸国において、薬物問題の重要性と効果的対策の必要性についての認識を高め、法制度、組織、国際取極めなどの分野での進展につながっているものとみられ、大きく評価することができる。

他面、これら研修成果の活用が十分でない研修員も一部みられ、実務に反映できる研修員の人選、情報交換のネットワークの積極的活用、成果の普及などにおいて、いっそうの工夫がなされればなお望ましい。

3-3 研修実施体制

(1) 業務運営体制

① 募集方法

R/Dに記載されたとおり、研修開始の90日前までに割当国からの参加申込みを得るためには、General Information（以下GI）の送付を相当前もって行わなければならないが、毎回60日前にGIを送付していた。送付先はベリーズとバハマを除

く在コスタ・リカ各国大使館である。

本研修のコーディネーターの任命の期間が十分でないことが余裕を持って送付できない理由のひとつであった。したがって、コスタ・リカから割当国に対する受入回答の実施も60日以前には当然できなかった。

また、外交チャンネルのみの募集では時間的余裕がないこともあり、1997年度研修では、外交チャンネルと並行して直接、関係機関へもG Iを送付し、参加者を募った。

G I送付が遅れたことによる実質的な研修実施上の障害は見いだせなかったが、参加者の公平な人選および割当国政府関係者への研修の周知という観点からみると、十分余裕を持ってG Iを送付すべきであった。

② 選考方法

割当国の23カ国より20名を人選するため、各国に1名の参加者の推薦を依頼し、応募者のなかから選考した。しかし、研修開始間近になって辞退者が出ることもあり、20名に満たない結果となる年があった(1994年度～1996年度)。本年度は各国より2名優先度をつけて応募してもらい、参加者の分野、職務などのバランスを考慮して人選し、改善が図られた。

③ 受入手続き

航空券はコスタ・リカの航空代理店を使い、航空券を割当国で発券するP T A方式で手配し、問題はなかった。

④ 予算執行管理

R/Dでは研修終了後30日以内にコースレポートを在コスタ・リカ日本大使館を通じてJICA本部に提出することになっていたが、過去4回の研修においてすべて期限内に実行されなかった。

この問題についてはILANUD所長もその非を認め、本年度開催の研修については提出時期を守ることを確約する発言があった。

あわせて、領収書などの証拠書類の保管について改めて要請した。

(2) コース運営体制

① 講師の選定

講師の多くは外部より招へいする形で行われ、特段の問題はみられなかった(ミニッツANNEX IV参照)。

② 研修施設

1993年度から3カ年、ILANUDの施設内で行われていたが、1996年度から研修参加者が宿泊しているホテルの施設を使って行われた。参加者などの数から研修会場

のスペースは適切であった。

③ 同時通訳、機材

研修会場でスペイン語-英語の同時通訳者2名が参加者の発言を同時通訳した。特に英語圏の国よりの参加者にとって有益であった。この同時通訳のための室内無線機材は十分に活用されていた。

3-4 当初計画の妥当性

(1) 到達目標

ILANUDの説明によると、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国における薬物問題は依然として深刻な状況にあり、犯罪の検挙人員数、押収薬物量ともに引き続き増加の傾向にあるうえ、マネーロンダリングなど新たな形態の犯罪もはびこりつつある。このような状況において、本研修が、「ラテンアメリカおよびカリブ海諸国における薬物の生産、乱用、密売買およびこれらから生じる収益の隠ぺい工作に関する問題の現状把握、理論・実践両面での防止対策の検討とあわせ、域内での効果的な解決方法の提案を行うこと」を目標としたことは、まことに時宜を得て適切であったものといえる。

具体的な到達目標は、

- ① 域内の薬物犯罪の現状認識
- ② 薬物問題の原因と効果的対策に必要な要因の分析
- ③ 各国の薬物問題対策の現状分析
- ④ 薬物問題とその対策に関する情報交換
- ⑤ 現実的かつ効果的対策の検討
- ⑥ 薬物問題対策の域内および国際的政策の案出

とされていたが、中南米諸国において、薬物問題に関する情報交換の場が少なく、他国の薬物問題に関する現状を知る機会がなかったと述べる研修員が多かったことなどからすると、各国の抱える問題点や対策について情報交換することは、薬物問題対策を検討し政策を案出するうえで不可欠であり、そのうえで効果的対策や政策を案出することを到達目標としたことは、研修の目的からしても適切であった。

(2) 研修期間・時期

毎年度約2週間の研修期間が設けられていた。本研修は、20を超える域内諸国で深刻な問題となっている薬物問題の防止・解決を最終的な目標とするものであり、そのテーマの大きさおよび重大さ、講義やグループワークの内容の豊富さなどからすると、期間が短い傾向はあるが、研修員が各国で重要な職を有していることからすると長期化することは困難であり、効率的な運営によって、多くの成果をあげ得たことからすると、期

間や時期の設定は適切であったものといえる。

(3) 研修員の資格要件

研修員の資格要件として、R/Dでは、

- ① 各国政府から推薦された者
- ② 55歳以下の者
- ③ 大学卒または同等の学歴を有する者
- ④ 刑事司法関係者または薬物犯罪の防止やコントロールの仕事に携わる者
- ⑤ 関連分野での5年以上の実務経験がある者
- ⑥ 政策決定レベルの高官である者
- ⑦ スペイン語の会話、読み書きに堪能な者
- ⑧ 心身ともに健康な者

が定められていたところ、本研修の参加者は、いずれも刑事司法、薬物問題などの専門家であり、各国の政策策定に携わり、または、これに重要な影響を及ぼし得るものと認められるなど、ほぼ資格要件を備えていたものといえる。ただし、英語圏からの参加があり、英西の同時通訳を入れることからすると、「スペイン語の会話、読み書きが堪能であること」とする要件は、「英語またはスペイン語の会話、読み書きが堪能であること」とされるべきであった。

(4) 定員・割当国

1993年度から1997年度までの応募者数と参加者数をみると、1996年度を除き、応募者が定員を上回り、毎年ほぼ定員数どおりの参加者があった。研修の成果が十分あがっていることからしても、定員・割当国はほぼ妥当であったと考えられる。

(5) カリキュラム

1993年度から1997年度まで、総合的薬物対策、乱用の防止、薬物犯罪に関する立法、捜査、証拠、乱用者の処遇、国際協力、マネーロンダリングなど、薬物問題に関係する広範な諸問題を順次取り上げてサブテーマとしており、その設定はおおむね適切であった。

個別発表、専門家講義、グループワーク、研修旅行、全体討議などの比率はおおむね適切であるが、全体の時間的な制約からグループワークに割く時間が少なく、かつ各参加者の準備も十分でないため、論議の深まりが少ない傾向がある。

なお、グループワークに関する研修員のアンケート結果は、回答数42のうち、40がvery good(+)(E)または(D)であり、研修旅行については、回答数38のうち、34がvery good(+)(E)または(D)であり、これらに対する研修員の評価は高い。

(6) 講師

専門家講義に関する研修員のアンケート結果は、回答数42のうち、40がvery good(+) (E)または(D)であり、研修員の評価は高く、よい結果を得ている。外部講師は年によって1名ないし5名と差があるが、研修の効果を高めるためには、毎年質の高い外部講師を4～5名確保することがより望ましいと考えられる。日本人専門家は毎年、アジア極東犯罪防止研修所から2名派遣されているが、国際的な視点から講義および研修に対するアドバイスをを行い、有益であった。

第4章 総合評価

第3章に記載した評価研修を総括すると次のとおりである。

(1) 目標達成度

過去の研修員へのアンケート、今回の研修員へのインタビューおよびILANUDとの協議結果などから判断すると、ほとんどの研修員が多くの知識を習得し、かつ、それらを積極的に活用、普及に努めており、目標は十分達成されたといえる。

(2) 研修実施体制

① 業務運営体制

おおむね問題はなかったが、実施経費の精算報告が期限内に提出されておらず、予算管理が必ずしも適切ではなかった。

② コース運営体制

特に、問題はなかった。

(3) 当初計画の妥当性

① 到達目標

域内諸国の薬物問題は依然として深刻であり、各国の抱える問題点や対策について情報交換することは、薬物問題対策を検討し政策を案出するうえで不可欠である。

したがって、到達目標は時宜を得て適切なものであった。

② 研修期間

研修員の職位の高さを勘案すると、これ以上長期化することは困難であり、適切であった。

③ 資格要件

語学力については、英語・スペイン語の同時通訳が配置されていたので、「英語またはスペイン語の読み書きが堪能であること」とされるべきだった。

④ 定員、割当国、カリキュラム

ほぼ妥当であった。

⑤ 講師

アジア極東犯罪防止研修所から派遣された日本人専門家は、その経験を生かした国際的な視点から講義などを行い、有益であった。

結論として、本研修は、当初の目標を十分達成し、域内における薬物取り締りと刑事司法分野での人材育成に寄与したものと評価できる。研修参加者のほとんどが本研修は非常に有益であったと述べているところであり、研修参加後には、研修で得た知識と経験を実

務に活かし、関係機関や個人にも成果を普及させているところである。

本研修は、ラテンアメリカやカリブ地域における薬物問題の深刻さと、より効果的な対策を案出する必要性を認識させた。薬物問題は、地域内において依然として深刻な問題であり、マネーロンダリングのような新しい犯罪も多くのラテンアメリカ諸国で発生しつつある。地域内の諸国は、薬物問題の解決にあたっては、なお困難な面に直面しており、この分野における人材育成のニーズおよび必要性はいまだ非常に高いものがあるといえる。

資 料

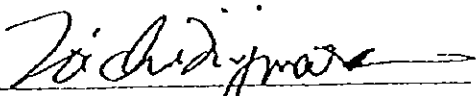
MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN THE JAPANESE EVALUATION TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF COSTA RICA AND
THE UNITED NATIONS LATIN AMERICAN INSTITUTE FOR CRIME PREVENTION
AND THE TREATMENT OF OFFENDERS ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME
ON EFFECTIVE COUNTERMEASURES AGAINST DRUG OFFENSES AND ADVANCEMENT
OF CRIMINAL JUSTICE ADMINISTRATION

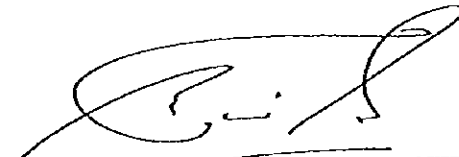
The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Toichi FUJIWARA, visited the Republic of Costa Rica from August 7 to August 15, 1997 for the purpose of evaluating the Regional Seminar (hereinafter referred to as "the Course") on effective countermeasures against drug offenses and advancement of criminal justice administration organized by the United Nations Latin American Institute For Crime Prevention and the Treatment of Offenders (hereinafter referred to as "ILANUD") under the auspices of Third Country Training Programme of JICA, which has been conducted since the Japanese Fiscal Year (hereinafter referred to as "JFY") 1993 in the Republic of Costa Rica.

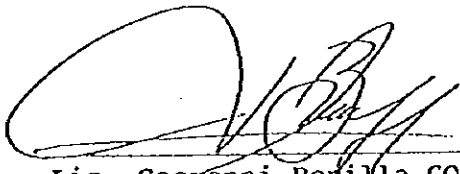
During its stay in the Republic of Costa Rica, the Team had a series of meetings with the representatives of ILANUD and other authorities concerned with respect to the progress, achievement and effect of the Course.

As a result of the meetings, both parties shared the view that the Course had greatly contributed to the development of effective countermeasures against drug offenses and advancement of criminal justice administration in Latin American and Caribbean countries. A list of the attendants to the meetings is attached as APPENDIX I. A summary report based on the meetings is attached as APPENDIX II.

Costa Rica, August 14, 1997


Mr. Toichi FUJIWARA
Head of the Japanese Evaluation
Team


Dr. Rodrigo PARIS-STEFFENS
Director General of ILANUD


Lic. Geovanni Bonilla GOLDONI
Vice Minister of Justice and Grace
Government of Costa Rica

APPENDIX I:LIST OF ATTENDANTS

APPENDIX II:SUMMARY REPORT

CONTENTS:

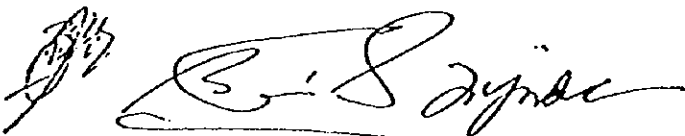
I. Background

II. Items of Evaluation

III. Evaluation

1. Course Needs
2. Attainment of Course Objectives
 - (1) Input
 - a. JICA input
 - b. ILANUD input
 - (2) Output
 - a. Accepted Participants
 - b. Attainment of Objectives
 - (3) Effect of the course
3. Adequacy of Initial Plan
 - (1) Course Objectives
 - (2) Duration
 - (3) Qualification of Applicants
 - (4) Number of Expected Participants and Invited Countries
 - (5) Procedures for Application, Selection, and Nomination
 - (6) Curriculum
 - (7) Lecturers
4. Administration and Management
 - (1) Implementing Measures by the ILANUD
 - (2) Course Conduct
 - a. Lecturers
 - b. Training Facilities and Equipment
 - c. Training Materials

IV. Conclusions



LIST OF ATTENDANTS

JAPANESE SIDE

1) EVALUATION TEAM

Mr. Toichi FUJIWARA

Head of Japanese Evaluation Team
Director of UNAFEI (THE ASIA AND FAR EAST
INSTITUTE FOR THE PREVENTION OF CRIME AND
THE TREATMENT OF OFFENDERS)

Mr. Masahiro TAUCHI

JICA expert for the Course
Deputy Director of UNAFEI (THE ASIA AND FAR
EAST INSTITUTE FOR THE PREVENTION OF CRIME
AND THE TREATMENT OF OFFENDERS)

Mr. Osamu MAKINO

Member of the Team
Development Specialist,
Japan International Cooperation Agency

Mr. Masahiro NAKAI

Member of the Team
Staff, Second Training Division,
Training Affairs Department,
Japan International Cooperation Agency

COSTA RICA SIDE

1) ILANUD

Dr. Rodrigo PARIS-STEFFENS

Director General

Mr. Ronald WOODBRIDGE

Principal Adviser

Ing. Danubio CASTRO

Project Director

Mr. Luis LACHNER

Project Director

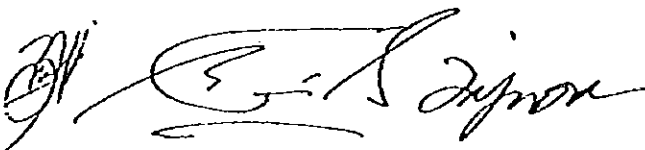
Lic. Mario CARVAJAL

Financial Manager

2) Ministry of Foreign Affairs

Mr. Alexis ARIAS

Coordinator, International
Cooperation Office, Asia Section



SUMMARY REPORT

I. BACKGROUND

1. There was an increasing concern with respect to the growing problems of drug production, trafficking and abuse, as well as handling of proceeds from these illicit activities in Latin American and Caribbean countries.

With a view to cope with these criminal phenomena, which are detrimental to the well-being of the people in the region, the Government of Costa Rica requested the Government of Japan to develop human resources in the field of drug problems. The Government of Japan favorably responded to the request and under the Third Country Programme of JICA, the Regional Seminar on "Effective Countermeasures Against Drug Offenses and Advancement of Criminal Justice Administration" was organized by ILANUD for JFY 1988-1992.

2. At the completion of the above mentioned course, the Government of Japan sent an evaluation team to Costa Rica to review planning, implementation, achievement and effect of the Courses and both parties shared the view that the Courses had been greatly effective for human resource development in this field.

3. After the evaluation, responding to the considerable needs and request of the Government of Costa Rica, the Government of Japan, ILANUD and Ministry of Justice and Grace of Costa Rica agreed to extend the Course for five more years based on the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D") signed on January 12, 1994. The Course has been conducted by ILANUD and supported by the Government of Japan through JICA once a year from JFY 1993 to 1997.


II. ITEMS OF EVALUATION

Evaluation work was carried out based on the following four (4) items;

1. Course Needs,
2. Attainment of Course Objectives,
3. Adequacy of Initial Plan, and
4. Administration and Management.

by acquiring information through the following methods;

1. Discussions with the authorities concerned,
2. Interviews with the participants to the Course in 1997 and with some ex-participants in Costa Rica,
3. Data obtained from ILANUD,
4. Mail questionnaires responded to by ex-participants, and



5. Course reports submitted by ILANUD

III. EVALUATION

1. Course Needs

The course was opened for applicants from twenty-four (24) Latin American and Caribbean countries, i.e. Argentina, Bolivia, Brazil, Barbados, Bahamas, Belize, Chile, Colombia, Costa Rica, Cuba, Ecuador, El Salvador, Guatemala, Honduras, Jamaica, Mexico, Nicaragua, Panama, Paraguay, Peru, Dominican Republic, Trinidad and Tobago, Uruguay and Venezuela.

It is fair to say that there was an acute need for the Course, judging from the current increasing problems of drug production, trafficking, and abuse in the region, and the number of participants in the Course participating at their own expenses.

The comparison of applicants and participants by each year is shown in ANNEX 1.

2. Attainment of Course Objectives

The degree of attainment of the Course objectives is evaluated based on the input by both parties (JICA and ILANUD) and the output of the Course.

(1) Input

a. JICA Input

-Budget

The Government of Japan provided necessary funds through JICA, as mentioned in R/D, for the invitation of overseas participants, covering international economy-class air fare, accommodations, per-diem and medical insurance premiums.

The funds for the operational costs for the Course were provided such as honoraria for secretaries, interpreters, translators and external lecturers, land transportation, consumption, meeting expenses and communications.

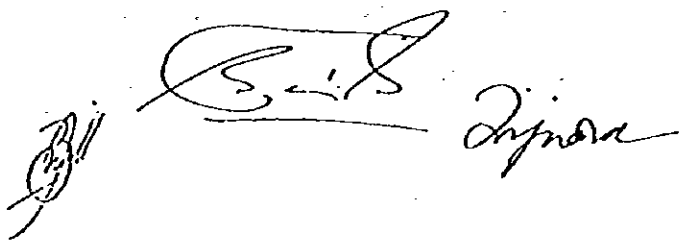
The total operational cost borne by JICA from JFY 1993 to 1996 amounts to \$ 348,652.39.

Financial report by each year is shown in ANNEX 2.

-Experts

Ten (10) Japanese experts, who were selected from among faculty members of UNAFEI have participated in the Course on a short-term basis from JFY 1993 to 1997. They delivered lectures and gave relevant advice to the group workshop, staying during the whole duration of the Course.

The list of the experts is shown in ANNEX 3.

The bottom of the page features several handwritten signatures and initials. On the left, there are initials that appear to be 'B.I.'. In the center, there is a large, stylized signature that looks like 'S. I. S.'. To the right of this, there is another signature that appears to be 'Tijana'.

b. ILANUD Input

-Budget

Besides the expenses financed by the Government of Japan, ILANUD has taken budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course, such as computers, photocopy machine, etc.

The total operational cost borne by ILANUD from JFY 1993 to 1996 was approximately \$80,000.

-Staff and lecturer

ILANUD assigned its staff as coordinators to carry out the Course.

In addition, several external lecturers were invited for the effective implementation of the Course.

The list of the external lecturers is shown in ANNEX 4.

-Facilities and equipment

ILANUD made available its facilities for the Course in 1994 and 1995. But ILANUD provided hotel rooms in which the participants from abroad stayed during the Course in 1993, and from 1996 to 1997.

ILANUD also provided the simultaneous interpretation for the Course.

(2) Output

a. Accepted Participants

The accumulated number of overseas participants was ninety-five (95) in total.

Moreover, twenty (20) Costa Ricans participated in the Course.

b. Attainment of Objectives

Almost all participants were able to study the actual situation of drug offenses in the region and exchange necessary information regarding drug offenses also exploring for effective countermeasures against them.

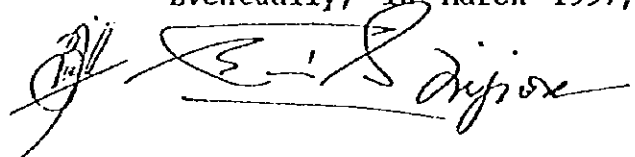
(3) Effect of the Course

The participants have exchanged informations and experiences among the countries in the region and explored more ways and means of the effective countermeasures against drug offenses.

Judging from the results of the questionnaires and interviews, most of the participants utilized the knowledge and outcomes obtained in the Course for developing feasible countermeasures and formulating strategies for their own countries as well as regional cooperation against drug problems. They also disseminated the knowledge and information among their colleagues and to their organizations.

In most countries of the region, the awareness of the seriousness of drug problems and the importance of developing effective countermeasures thereto have been significantly enhanced.

Eventually, in March 1997, "THE CENTRAL AMERICAN CONVENTION ON



MONEY LAUNDERING" was concluded by six Central American countries, i.e. Costa Rica, El Salvador, Guatemala, Honduras, Nicaragua and Panama with the assistance of ILANUD, which prepared the draft of the convention. Also, in the northern part of South America the same type of convention is now being examined. Moreover, several countries have revised relevant existing laws to strengthen the control over drugs and related problem since the Course started.

It seems that many people concerned are of the view that those movements mentioned above were able to be attributed in a great extent, to the successful continuation of the Courses.

3. Adequacy of Initial Plan

(1) Course Objectives

The course objectives were adequate because drug problems were still serious in Latin American and Caribbean countries and there was lack of personnel who could recognize the actual situation of drug offenses and develop feasible and effective countermeasures in the region.

(2) Duration

About two weeks were scheduled for the Course every year. This duration is considered to be adequate because the participants had difficulty in taking long leaves of absence from their work.

(3) Qualification of Applicants

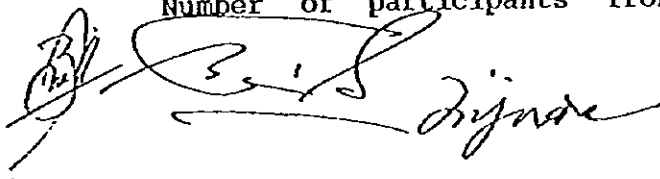
The R/D stipulates that applicants should;

- 1) Be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure mentioned in the R/D,
- 2) Be under fifty-five (55) years of age,
- 3) Be university graduates, or to have the equivalent academic background,
- 4) Be presently engaged in criminal justice administration, or other responsibilities related to the prevention and control of drug offenses,
- 5) Have practical experience of more than five (5) years in a related fields,
- 6) Be high-ranking officials at the policy-making level,
- 7) have a good command of spoken and written Spanish, and
- 8) Be in good health, both physically and mentally, to complete the Course.

In some Caribbean invited countries the mother tongue is English. As there were simultaneous interpreters during the Course, the Article 7) should have been stipulated as "have a good command of spoken and written Spanish or English".

(4) Number of Expected Participants and Invited Countries

Number of participants from the invited countries, who are

A large, stylized handwritten signature, possibly reading "Dijnde", is written over the text of section (4). To the left of the signature is a circular scribble containing some illegible markings.

receiving financial support from JICA, was set not to exceed twenty (20) in the R/D.

With reference to the exchange of informations among the participants, the number is considered to be adequate.

Compared with the first cooperation period from 1988 to 1992, seven countries newly joined and almost all countries in the region could have the chance to participate the Course.

(5) Procedures for Application, Selection, and Nomination

ILANUD sent out General Information (G.I.), two months prior to the start of the Course, to the invited countries through its diplomatic channels. But it took very long time, so ILANUD sent it directly to the related organizations. This procedure has made the implementation of application, selection and nomination of participants smooth and timely.

(6) Curriculum

The curriculum was made in accordance with the Course objectives every year.

The curriculum was composed of lecture, individual presentation, case studies, group workshop, etc.

It is considered to be adequate.

(7) Lecturers

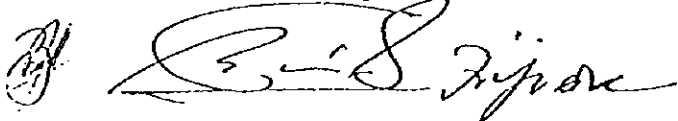
A sufficient number of lecturers from various related organizations were invited. The participants were able to exchange necessary information and knowledge regarding drug offenses and countermeasures.

4. Administration and Management

(1) Implementing Measures by the Costarican side

In organizing and implementing the Course, ILANUD was to take the following measures described in R/D;

- 1) To formulate the curriculum based on in R/D,
- 2) To draft and print the General Information,
- 3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors for the Course,
- 4) To provide training facilities and equipment for the Course,
- 5) To select participants in the Course, and inform the result of the selection to the Government of Costa Rica and the Embassy of Japan in Costa Rica,
- 6) To arrange accommodations for the participants,
- 7) To arrange international air tickets for participants from the invited countries and to meet and see them off at the airport,
- 8) To arrange domestic study tour to be included in the Course,
- 9) To take budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course, excluding the expenses financed by the



- Government of Japan,
- 10) To issue certificates to successful participants at the end of the Course,
 - 11) To submit a course report and a statement of expenditures to the JICA Headquarters through the Embassy within thirty (30) days after termination of the Course, and
 - 12) To coordinate any matters related to the Course.

There was a significant delay for submitting the course reports and the statement of expenditures to JICA, the Team requested ILANUD to manage it in due time for the Course in 1997. ILANUD agreed with the request.

(2) Course Conduct

a. Lecturers

All lecturers had excellent and current knowledge suitable for the purpose of the Course.

b. Training Equipment

Judging from the Course content, there was no obstacle to implementing the Course effectively.

c. Training Materials

The textbooks have been well prepared.

IV. CONCLUSIONS

The second phase of the Course started in 1993, and JFY 1997 marks the fifth time the Course has been held. During these years, ILANUD has accepted ninety-five (95) participants from Latin American and Caribbean countries.


Based on this evaluation study, the Team and ILANUD came to the following conclusions.

The Courses have fully achieved the initial objectives contributing to human resource development in the field of drug control and criminal justice administration in the countries of the region.

According to the Course reports and the results of questionnaires and interviews, almost all participants expressed that the Courses were very beneficial towards attaining their purposes. And after the Course, they have been able to utilize the knowledge and experiences in their practices and disseminate the valuable outcome of the Course among the individuals and agencies concerned.

The Courses have also contributed to enhance the awareness of the growing seriousness of problems and the necessity for the development of more effective countermeasures in Latin America and Caribbean countries.

The drug offense is still one of the most serious problems in

Latin America and Caribbean countries. Nonetheless, in recent years new types of drug-related offenses, such as money-laundering, have been taking place in many countries of the region.

Most of the countries in the region still face difficulties in solving the problem. One of the reasons is the lack of trained personnel in the field of drug control and crime prevention. It seems that human resource development in this field is still in great demand and necessity in the region.

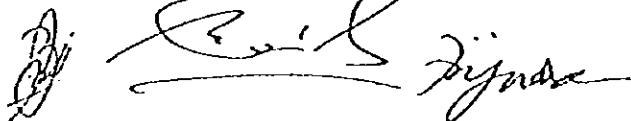
LIST OF ITEMS TO BE EVALUATED (SUMMARY)

ANNEX-1: Comparison of Applicants and Participants

ANNEX-2: Relation of Budget and Expenses of the Course Provided by
JICA

ANNEX-3: Japanese Experts for the Course by Year

ANNEX-4: External Instructors for the Course by Year



The Comparison of Applicants and Participants

| JFY | 1993 | | 1994 | | 1995 | | 1996 | | 1997 | | TOTAL | |
|-----------------------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|-------|-----|
| | A | B | A | B | A | B | A | B | A | B | A | B |
| A. The number of Applicants | | | | | | | | | | | | |
| B. Participants | | | | | | | | | | | | |
| Argentina | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 7 | 4 |
| Bolivia | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| Brazil | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 7 | 6 |
| Barbados | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 |
| Bahamas | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 |
| Belize | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 4 |
| Chile | 0 | 0 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 | 4 |
| Colombia | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6 | 4 |
| Cuba | — | — | — | — | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| Ecuador | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 7 | 7 |
| El Salvador | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 4 |
| Guatemala | 5 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 9 | 6 |
| Honduras | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 |
| Jamaica | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| Mexico | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 4 |
| Nicaragua | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 7 | 4 |
| Panama | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 7 | 6 |
| Paraguay | 0 | 0 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 2 |
| Peru | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 8 | 5 |
| Dominica(Rep.) | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 4 |
| TRIN.&TOBAGO | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| Uruguay | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| Venezuela | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| Sub Total | 30 | 23 | 29 | 18 | 23 | 18 | 18 | 16 | 23 | 20 | 123 | 95 |
| Costa Rica | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 11 | 11 | 20 | 20 |
| Total | 32 | 25 | 32 | 21 | 25 | 20 | 20 | 18 | 34 | 31 | 143 | 115 |

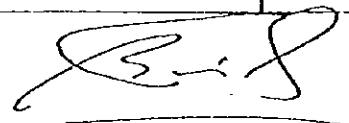
[Handwritten initials]

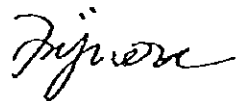
[Handwritten signature]

The Relation of Budgets and Expenses of the Course provided JICA (1993-1996)

Unit.US\$

| | 1993 | | 1994 | | 1995 | |
|------------------------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|
| | Budget | Expenses | Budget | Expenses | Budget | Expenses |
| I. Invitation Expenses | | | | | | |
| 1. Air Tickets | 18,000 | 11,725.44 | 13,000 | 14,905.07 | 16,000 | 11,591.81 |
| 2. Per - diem | 11,200 | 15,400.00 | 17,550 | 13,535.00 | 17,550 | 13,695.00 |
| 3. Accommodation | 19,600 | 13,780.00 | 14,100 | 11,750.00 | 14,100 | 8,397.00 |
| 4. Medical Insurance | 1,700 | 1,437.91 | 1,500 | 702.40 | 1,500 | 768.00 |
| Sub Total | 50,500 | 42,343.35 | 46,150 | 40,892.47 | 49,150 | 34,451.81 |
| II. Training Expenses | | | | | | |
| 1. Employment Fees | 21,400 | 18,649.75 | 23,700 | 24,193.38 | 23,700 | 23,586.70 |
| (1) Chief Secretary | 5,500 | 5,500.00 | 6,400 | 6,400.00 | 6,400 | 6,400.00 |
| (2) Secretary | 2,400 | 2,400.00 | 2,400 | 2,400.00 | 2,400 | 2,400.00 |
| (3) Interpreter | 5,000 | 4,408.67 | 5,250 | 5,219.83 | 5,250 | 5,500.00 |
| (4) Translator | 8,500 | 6,341.08 | 8,950 | 9,648.21 | 8,950 | 8,566.70 |
| (5) External Lecturer | 0 | 0 | 700 | 525.34 | 700 | 720.00 |
| 2. Study Tour | 1,700 | 2,560.22 | 3,298 | 3,073.92 | 3,298 | 4,333.96 |
| 3. Land Transportation | 600 | 1,555.91 | 787 | 787.00 | 787 | 787.00 |
| 4. Consumption | 8,000 | 14,975.02 | 11,250 | 16,788.45 | 11,250 | 11,250.00 |
| 5. Meeting Expenses | 4,000 | 2,857.03 | 4,000 | 3,407.40 | 4,000 | 2,938.00 |
| 6. Communications | 3,000 | 6,258.72 | 3,500 | 3,542.38 | 3,500 | 3,120.00 |
| 7. Others | 6,500 | 6,500.00 | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| Sub Total | 45,200 | 53,356.65 | 46,535 | 51,792.53 | 46,535 | 46,015.66 |
| Grand Total | 95,700 | 95,700.00 | 92,685 | 92,685.00 | 95,685 | 80,467.47 |



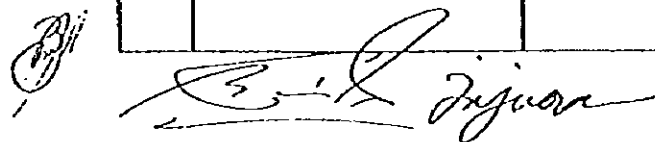


| | 1996 | | TOTAL | |
|-------------------------------|---------------|------------------|----------------|-------------------|
| | Budget | Expenses | Budget | Expenses |
| I. Invitation Expenses | | | | |
| 1. Air Tickets | 15,000 | 10,952.17 | 62,000 | 49,174.49 |
| 2. Per - diem | 17,550 | 11,437.00 | 63,850 | 54,067.00 |
| 3. Accommodation | 14,100 | 11,673.00 | 61,900 | 45,600.00 |
| 4. Medical Insurance | 1,500 | 357.76 | 6,200 | 3,266.07 |
| Sub Total | 48,150 | 34,419.93 | 193,950 | 152,107.56 |
| II. Training Expenses | | | | |
| 1. Employment Fees | 23,700 | 23,806.99 | 92,500 | 90,236.82 |
| (1) Chief Secretary | 6,400 | 6,400.00 | 24,700 | 24,700.00 |
| (2) Secretary | 2,400 | 2,906.83 | 9,600 | 10,106.83 |
| (3) Interpreter | 5,250 | 5,250.00 | 20,750 | 20,378.50 |
| (4) Translator | 8,950 | 8,550.16 | 35,350 | 33,106.15 |
| (5) External Lecturer | 700 | 700.00 | 2,100 | 1,945.34 |
| 2. Study Tour | 3,298 | 2,828.64 | 11,594 | 12,796.74 |
| 3. Land Transportation | 787 | 48.87 | 2,961 | 3,178.78 |
| 4. Consumption | 11,250 | 11,032.92 | 41,750 | 54,046.39 |
| 5. Meeting Expenses | 4,000 | 4,068.56 | 16,000 | 13,270.99 |
| 6. Communications | 3,500 | 3,594.01 | 13,500 | 16,515.11 |
| 7. Others | 0 | 0.00 | 6,500 | 6,500.00 |
| Sub Total | 46,535 | 45,379.99 | 184,805 | 196,544.83 |
| Grand Total | 94,685 | 79,799.92 | 378,755 | 348,652.39 |

[Handwritten signature]
[Handwritten signature]

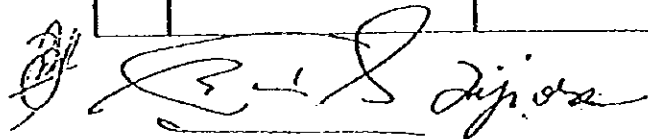
Japanese Experts for JICA Course by Year . (1993-1997)

| JFY | NAME | DURATION | SUBJECT |
|------|----------------------|------------------------|--|
| 1993 | MS.Tomoko SASAKI | 1994.3.4 ~ 1994.3.22 | TREATMENT OF ADDICTS AND SUPERVISION OF PREVENTIVE PROGRAMS BY THE COMMUNITY |
| | MR.Takeshi KOYANAGI | 1994.3.4 ~ 1994.3.22 | INTERNATIONAL COOPERATION FOR PREVENTION OF DRUG CRIMES |
| 1994 | MR.Hiroshi OBAYASHI | 1994.7.19 ~ 1994.8.11 | DRUG CRIMES IN JAPAN.CURRENT SITUATION AND EFFECTIVE COUNTERMEASURES |
| | MR.Tatsuhiko ARAKI | 1994.7.19 ~ 1994.8.11 | COMPREHENSIVE PREVENTION PROGRAMMES FOR DRUG USE,EVALUATION AND FOLLOW-UP. DRUG PROBLEMS AND TREATMENT OF DRUG ADDICTS IN JAPAN. |
| 1995 | MR.Kuathiro HORIUCHI | 1995.7.26 ~ 1995.8.14 | DRUG CRIMES IN ASIA AND EFFECTIVE COUNTERMEASURES |
| | MS.Masako SAEKI | 1995.7.26 ~ 1995.8.14 | DRUG PROBLEMS AND TREATMENT OF DRUG ADDICTS IN JAPAN |
| 1996 | MR.Hiroyuki YOSHIDA | 1996.7.24 ~ 1996.8.13 | INTERNATIONAL COOPERATION RELATIVE TO COUNTERMEASURES FOR COMBATING DRUG CRIMES |
| | MR.Mikinao KITADA | 1996.7.24 ~ 1996.8.13 | CONTROL OF DRUG CRIMES AND INTERNATIONAL COOPERATION |
| 1997 | MS.Tomoko AKANE | 1997.7.27 ~ 1997.8.9 | EFFECTIVE COUNTERMEASURES AGAINST DRUG TRAFFICKING, SPECIALLY,ANTI-MONEY LAUNDERING POLICIES,LEGISLATION AND PRACTICE BY LAW ENFORCEMENT |
| | MR.Masabiro TAUCHI | 1997.7.27 ~ 1997.8.17. | THE CONFISCATION OF DRUG TRAFFICKING PROCEEDS AND CONTROLLED DELIVERY |



External Instructors for JICA Course by Year . (1993-1997)

| JFY | NAME | ORGANIZATION | SUBJECT |
|------|-----------------------------|--|---|
| 1993 | DR. Maria de la Luz Lima | President, Mexican Foundation of Assistance to Victims. Counselor, Commission of Human Rights, D.F. | GENERAL VIEW OF TYPOLOGY IN DRUG MATTERS |
| | DR. Michael Sullivan | Juridical Adviser CICAD/OEA | MODEL REGULATIONS AND JURIDICAL CENTERS FROM CICAD'S PERSPECTIVE |
| | LIC. Cristina Rojas | Former Technical Adviser U.N. Drug Control Program | INTERNATIONAL COOPERATION IN CRIME PREVENTION ON DRUG MATTERS |
| | LIC. Patricia Cordero | Eleventh Prosecutor of the Prosecuting Bureau | REPRESSIVE ACTIVITY ON DRUG MATTERS |
| | MR. Jose Rivera Varela | Specialist in Banking Matters | |
| 1994 | DR. Eduardo Vargas Alvarado | Consultant in Forensic Pathology and Legal Medicine | LEGAL MEDICAL ASPECT |
| | MR. Angel Parra | Colombia | PREVENTION |
| 1995 | MR. Manuel Molina Brenes | General Director, CONADRO | NATIONAL PLANS AND PUBLIC CAMPAIGNS |
| | MS. Julia Correa | Executive Secretary, CONAPRED | COORDINATION OF EFFORTS AND STRATEGIES BETWEEN CONAPRED ENTITIES |
| 1996 | MR. Rodrigo Jimenez | Counterpart of ILANUD | WOMEN DRUG TRAFFICKERS |
| 1997 | MR. Edward Mederos | Customs, USA | STRUCTURE AND DYNAMICS OF ORGANIZED CRIME AND ITS TASK IN MONEY LAUNDERING |
| | MR. Lee Roberts | Fin CEN, USA | INTERNATIONAL STRATEGY OF THE U.S. INTERNAL REVENUE SERVICE IN THE CRIMINAL INVESTIGATION |
| | DR. Zenon biasgosh | Commissioner, Money-Laundering Area, Argentina | MONEY-LAUNDERING |
| | DR. Jack Blum | Ex-Assessor, USA | THE FUTURE OF INTERNATIONAL COOPERATION IN FINANCIAL ISSUES |



2 1997年度実施経費精算表

**X SEMINAR
EFFECTIVE COUNTERMEASURES AGAINST DRUG OFFENSES AND
THE ADVANCEMENT OF THE CRIMINAL JUSTICE ADMINISTRATION
AUGUST 30, 1997**

| COD | ITEM | BUDGET | ACTUAL | BALANCE | % EXECUTION |
|-----|---------------------------------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|
| I | INVITATION EXPENSES | 44,870.00 | 37,265.41 | 7,604.59 | 83.05% |
| 1 | Air Tickets (750 X 20 p) | 15,000.00 | 12,289.41 | 2,710.59 | 81.93% |
| 2 | Per-diem | | | | |
| | Foreigner (55 X 20p X 14 d) (*) | 15,400.00 | 13,035.00 | 2,365.00 | 84.64% |
| | Transfer (75 X 5p X 2 d) | 750.00 | 75.00 | 675.00 | 10.00% |
| 3 | Accommodation (47 X 20p X 13 n) (**) | 12,220.00 | 10,246.00 | 1,974.00 | 83.85% |
| 4 | Medical insurance | 1,500.00 | 1,620.00 | -120.00 | 108.00% |
| II | TRAINING EXPENSES | 44,533.00 | 43,772.64 | 760.36 | 98.29% |
| 1 | Employment Fees | | | | |
| | Interpreters | 5,250.00 | 5,500.00 | -250.00 | 104.76% |
| | Translators | 4,950.00 | 4,679.18 | 270.82 | 94.53% |
| | Coordinator | 6,400.00 | 6,400.00 | 0.00 | 100.00% |
| | Secretary | 2,400.00 | 2,410.80 | -10.80 | 100.45% |
| | External Lecturer | 700.00 | 0.00 | 700.00 | 0.00% |
| | Presentation Translator | 4,000.00 | 3,807.69 | 192.31 | 95.19% |
| 2 | Study Tour | 1,296.00 | 1,296.00 | 0.00 | 100.00% |
| 3 | Land Transportation | 787.00 | 740.77 | 46.23 | 94.13% |
| 4 | Consumption | 11,250.00 | 11,275.38 | -25.38 | 100.23% |
| 5 | Communications | 3,500.00 | 3,500.00 | 0.00 | 100.00% |
| 6 | Meeting Expenses | 4,000.00 | 4,162.82 | -162.82 | 104.07% |
| | TOTAL | 89,403.00 | 81,038.05 | 8,364.95 | 90.64% |

(*) Since some participants did not stay for the entire two weeks of the seminar, the total number of days is 237. This amount includes an additional day per participant, which is authorized for meals during traveling.

(**) The total of nights is 218, which is the result of subtracting 19 additional days of per diem from the above mentioned amount of 237 days (total number of participants is 19).

3 研修受講者アンケート調査結果概要

1. 調査対象者

1993年度～1996年度の参加者84名。

| 年度 | 中米・カリブ | 南米 | 計 |
|------|--------|----|----|
| 1993 | 12 | 13 | 25 |
| 1994 | 13 | 8 | 21 |
| 1995 | 11 | 9 | 20 |
| 1996 | 12 | 6 | 18 |
| 計 | 48 | 36 | 84 |

中米・カリブ：バルバドス、バハマ、ベリーズ、キューバ、エル・サルヴァドル、
グアテマラ、ホンデュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、ドミ
ニカ共和国、トリニダッド・トバゴ、コカタ・リカ（以上 14カ国）

南米：コロンビア、ヴェネズエラ、エクアドル、ブラジル、ペルー、ボリヴィア、
パラグアイ、アルゼンティン、ウルグアイ、チリ（以上 10カ国）

2. アンケート用紙

別紙(1)のとおり。

なお、スペイン語圏の参加者に対しては、アンケート用紙を I L A N U D がスペイン語
に翻訳のうえ、各国へ送付した。

3. 回収結果 46枚（回収率 54.8%）

国別・年度別内訳：別紙(2)のとおり。

4. アンケート回答結果

別紙(3)のとおり。

(1) アンケート用紙

QUESTIONNAIRE

To the Ex-participants of Third Country Training Programme
on Regional Seminar on Effective Countermeasures against
Drug Offenses and Advancement of Criminal Justice Administration

CONFIDENTIAL

1. GENERAL INFORMATION

(1) Name in full : _____

(2) Country : _____

(3) Age : _____

(4) Year of Participation: : 1993 : 1994 : 1995 : 1996

(5) Employment Record (from the time you participated in the course up to now)

| Date of Service | Name of Organization | Title of Post |
|-----------------|----------------------|---------------|
| | | |

(6) Please give a brief outline of your current duties.

(With regard to the comments of this questionnaire, you can write in Spanish.)

(7) If available, please attach an organization chart with the number of personnel in each section, and indicate your position.

2. COURSE NEEDS

(1) How did you know about the course?

(2) Why did you apply for the course?

(3) Do your superiors recommend to apply for the course?

[a] always [b] often [c] usually [d] sometimes [e] never

(4) Do you think the course is still in great demand for your country?

[a] Yes [b] No

If no, please give the reason.

[a] It seems that the course doesn't meet our country needs.

[b] Although the course seems to be useful for our country, the level is too advanced for my colleagues.

[c] Although the course seems to be useful for our country, the level is too elementary for my colleagues.

[d] Others

In case of others, please explain in detail.

(5) Have you ever participated in any other seminar in your country or abroad?

[a] Yes [b] No

If yes, please give the information on next page.

| Country | Institute | Duration of Course | Name of the Seminar and its Content |
|---------|-----------|--------------------|-------------------------------------|
| | | | |

If no, please give the reason.

[a] There was no other seminar on this thema in our country and Latin American countries.

[b] Although there were some seminars on this thema, I couldn't have the opportunity for participating them because of busyness or some official reasons.

[c] Others

(6) How do you evaluate the seminar(s) written above comparing with this seminar?

[a] more useful [b] as useful as the course [c] less useful [d] others

In case of others, please explain in detail.

3. OUTCOME OF SEMINAR

(1) What was your main purpose of attending the seminar of the Third Country Training Programme? Please check where applicable.

- [a] To gain general knowledge of the field**
- [b] To gain current information of the field**
- [c] To exchange views with participants from other countries**
- [d] Others**

In case of others, please explain in detail.

(2) Was the seminar beneficial towards attaining this purpose?

Not at all(-) [a] [b] [c] [d] [e] very much(+)

Please explain in greater detail your response to the above question.

(3) To what extent did you recognize the actual situation of drug offenses through the seminar?

Not at all(-) [a] [b] [c] [d] [e] very much(+)

(4) To what extent did you analyze the causes of drug problems through the seminar?

Not at all(-) [a] [b] [c] [d] [e] very much(+)

(5) To what extent did you analyze the present countermeasures against drug offenses through the seminar?

Not at all(-) [a] [b] [c] [d] [e] very much(+)

(6) To what extent did you exchange necessary intelligence regarding drug offenses and countermeasures through the seminar?

Not at all(-) [a] [b] [c] [d] [e] very much(+)

(7) Did you utilize the knowledge acquired during the seminar in your own job ?

[a] yes [b] no

① If yes, how did you utilize it? Please check where applicable.

I could utilize it in;

[a] Developing feasible and more effective countermeasures

[b] Formulating overall strategies for regional and interregional cooperation against drug offenses

[c] Others

In case of others, please explain in detail.

② If no, please give the reason.

(8) Did you spread the knowledge acquired in the course?

① If yes, how did you spread it? Please check where applicable.

I could spread it by;

[a] Informing my colleagues personally

[b] Reporting to my organization officially

[c] Giving lectures or seminars for other organizations concerned

[d] Producing publications

[e] Others

In case of others, please explain in detail.

② If no, please give the reason.

(9) Are there any obvious obstacles in utilizing/spreading what you acquired through the course?

[a] yes [b] no

If yes, what do you consider are obvious obstacles in utilizing/spreading what you acquired through the seminar? Please check where applicable.

[a] Lack of trained personnel

[b] Lack of facilities

[c] Lack of budget

[d] Others

In case of others, please explain in detail.

(10) Have you found any improvement in your job position/duty/or work after attending the course?

[a] Yes [b] No

If yes, please check where applicable.

[a] Salary-rise

[b] Promotion

[c] Better qualification

[d] Better reputation

[e] Motivation for high education

[f] Others

In case of others, please explain in detail.

(11) What specific subject do you hope to study further?

4. COURSE IMPLEMENTATION

(1) How do you evaluate the group workshop?

Very poor (-) [a] [b] [c] [d] [e] very good (+)

If you have any comment on the group workshop, please describe briefly.

(2) How do you evaluate the site (facilities) visit?

Very poor (-) [a] [b] [c] [d] [e] very good (+)

If you have any comment on the site visit, please describe briefly.

(3) How do you evaluate the lectures?

Very poor (-) [a] [b] [c] [d] [e] very good (+)

If you have any comment on the lectures, please describe briefly.

(2) アンケート国別・年度別回収結果

| 参加年度 | 1993 | | 1994 | | 1995 | | 1996 | | 合計 | |
|------------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-------|
| | 参加者数 | 回収数 | 参加者数 | 回収数 | 参加者数 | 回収数 | 参加者数 | 回収数 | 参加者数 | 回答数 |
| アルゼンティン | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 4 | 4 |
| ボリヴィア | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| ブラジル | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 5 | 1 |
| バルバドス | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 | 2 |
| バハマ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| ベリーズ | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| チリ | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 |
| コロンビア | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| キューバ | — | — | — | — | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| エクアドル | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 |
| エル・サルヴァドル | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| グアテマラ | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |
| ホンデュラス | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 4 |
| ジャマイカ | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 2 |
| メキシコ | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 1 |
| ニカラグア | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 |
| パナマ | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| パラグアイ | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| ペルー | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 4 | 2 |
| ドミニカ共和国 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| トリニダッド・トバゴ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ウルグアイ | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 *1 |
| ヴェネズエラ | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 |
| コスタ・リカ | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 9 | 8 |
| 合計 | 25 | 9 | 21 | 13 | 20 | 15 | 18 | 10 | 84 | 46 *2 |

*1：ウルグアイの1993・1995年度参加者は、同一人物であったため、回収枚数は2枚。

*2：総回収枚数は、46枚。

(3) アンケート結果一覧表

COURSE NEEDS

| QUESTION | CENTRAL AMERICA & CARIB | SOUTH AMERICA | TOTAL |
|---|----------------------------|------------------|-------|
| ① DO YOUR SUPERIORS RECOMMEND TO APPLY FOR THE COURSE ? | | | |
| ALWAYS (A) | 13 | 4 | 17 |
| OFTEN (B) | 2 | 5 | 7 |
| USUALLY (C) | 2 | 1 | 3 |
| SOMETIMES (D) | 5 | 2 | 7 |
| NEVER (E) | 3 | 0 | 3 |
| ② DO YOU THINK THE COURSE IS STILL IN GREAT DEMAND FOR YOUR COUNTRY? | | | |
| YES (A) | 25 | 9 | 34 |
| NO (B) | 5 | 2 | 7 |
| ③ HAVE YOU EVER PARTICIPATED IN ANY OTHER SEMINAR IN YOUR COUNTRY OR ABROAD ? | | | |
| YES (A) | 21 | 12 | 33 |
| NO (B) | 8 | 2 | 10 |
| ④ HOW DO YOU EVALUATE THE SEMINAR WRITTEN ABOVE COMPARING WITH THIS SEMINAR? | | | |
| MORE USEFUL (A) | 2 | 0 | 2 |
| AS USEFUL AS THE COURSE (B) | 16 | 10 | 26 |
| LESS USEFUL (C) | 0 | 0 | 0 |
| OTHERS (D) | 3 | 0 | 3 |

OUTCOME OF SEMINAR

| QUESTION | CENTRAL AME RICA & CARIB | SOUTH AMERICA | TOTAL |
|---|-----------------------------|------------------|-------|
| ① MAIN PURPOSE OF ATTENDING THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME. | | | |
| (A) TO GAIN GENERAL KNOWLEDGE OF THE FIELD | 3 | 3 | 6 |
| (B) TO GAIN CURRENT INFORMATION OF THE FIELD | 22 | 9 | 31 |
| (C) TO EXCHANGE VIEWS WITH PARTICIPANTS FROM OTHER COUNTRIES | 16 | 13 | 29 |
| (D) OTHERS | 1 | 1 | 2 |
| ② WAS THE SEMINAR BENEFICIAL TOWARDS ATTAINING THIS PURPOSE? | | | |
| VERY MUCH (+) (E) | 24 | 10 | 34 |
| (D) | 3 | 3 | 6 |
| (C) | 1 | 1 | 2 |
| (B) | 4 | 0 | 4 |
| NOT AT ALL (-) (A) | 0 | 0 | 0 |
| ③ TO WHAT EXTENT DID YOU RECOGNIZE THE ACTUAL SITUATION OF DRUG OFFENSES? | | | |
| VERY MUCH (+) (E) | 21 | 8 | 29 |
| (D) | 5 | 5 | 10 |
| (C) | 0 | 0 | 0 |
| (B) | 2 | 1 | 3 |
| NOT AT ALL (-) (A) | 0 | 0 | 0 |
| ④ TO WHAT EXTENT DID YOU ANALYZE THE CAUSES OF DRUG PROBLEMS? | | | |
| VERY MUCH (+) (E) | 17 | 8 | 25 |
| (D) | 8 | 4 | 12 |
| (C) | 2 | 2 | 4 |
| (B) | 4 | 0 | 4 |
| NOT AT ALL (-) (A) | 1 | 0 | 1 |
| ⑤ TO WHAT EXTENT DID YOU ANALYZE THE PRESENT COUNTERMEASURES AGAINST DRUG OFFENSES? | | | |
| VERY MUCH (+) (E) | 21 | 8 | 29 |
| (D) | 4 | 5 | 9 |
| (C) | 1 | 0 | 1 |
| (B) | 1 | 1 | 2 |
| (A) | 1 | 0 | 1 |

| QUESTION | CENTRAL AME RICA & CARIB | SOUTH AMERICA | TOTAL |
|--|--|--|---|
| ⑥ TO WHAT EXTENT DID YOU EXCHANGE NECESSARY INTELLIGENCE REGARDING DRUG OFFENSES AND COUNTERMEASURES? VERY MUCH (+) (B) (B) (C) (B) | 18 6 3 1 0 | 10 1 1 2 1 | 28 7 4 3 1 |
| ⑦ DID YOU UTILIZE THE KNOWLEDGE ACQUIRED DURING THE SEMINAR? YES (A) (a) DEVELOPING FEASIBLE AND EFFECTIVE COUNTERMEASURES (b) FORMULATING STRATEGIES FOR REGIONAL AND INTERREGIONAL COOPERATION AGAINST DRUG OFFENSES (c) OTHERS NO (B) | (A) 28 (a) 9 (b) 9 (c) 10 (B) 1 | (A) 10 (a) 5 (b) 2 (c) 3 (B) 3 | (A) 38 (a) 14 (b) 11 (c) 13 (B) 4 |
| ⑧ DID YOU SPREAD THE KNOWLEDGE ACQUIRED IN THE COURSE? YES (A) (a) INFORMING MY COLLEAGUES PERSONALLY (b) REPORTING TO MY ORGANIZATION OFFICIALLY (c) GIVING LECTURES OR SEMINARS FOR OTHER ORGANIZATIONS CONCERNED (d) PRODUCING PUBLICATIONS (e) OTHERS NO (B) | (A) 23 (a) 19 (b) 15 (c) 9 (d) 9 (e) 3 (B) 0 | (A) 8 (a) 8 (b) 8 (c) 5 (d) 4 (e) 4 (B) 0 | (A) 31 (a) 27 (b) 23 (c) 14 (d) 13 (e) 7 (B) 0 |
| ⑨ ARE THERE ANY OBVIOUS OBSTACLES IN UTILIZING/SPREADING WHAT YOU ACQUIRED? YES (A) (a) LACK OF TRAINED PERSONNEL (b) LACK OF FACILITIES (c) LACK OF BUDGET (d) OTHERS NO (B) | (A) 11 (a) 3 (b) 2 (c) 9 (d) 2 (B) 18 | (A) 7 (a) 4 (b) 1 (c) 3 (d) 2 (B) 7 | (A) 18 (a) 7 (b) 3 (c) 12 (d) 4 (B) 25 |
| ⑩ HAVE YOU FOUND ANY IMPROVEMENT IN YOUR JOB POSITION/DUTY OR WORK? YES (A) (a) SALARY-RISE (b) PROMOTION (c) BETTER QUALIFICATION (d) BETTER REPUTATION (e) MOTIVATION FOR HIGH EDUCATION (f) OTHERS NO (B) | (A) 23 (a) 3 (b) 4 (c) 9 (d) 4 (e) 12 (f) 4 (B) 4 | (A) 9 (a) 1 (b) 1 (c) 2 (d) 2 (e) 4 (f) 2 (B) 3 | (A) 32 (a) 4 (b) 5 (c) 11 (d) 6 (e) 16 (f) 6 (B) 7 |

COURSE IMPLEMENTATION

| QUESTION | CENTRAL AME RICA&CARIB | SOUTH AMERICA | TOTAL |
|--|---------------------------|------------------|-------|
| ① HOW DO YOU EVALUATE THE GROUP WORKSHOP? | | | |
| VERY GOOD (+) (E) | 22 | 14 | 36 |
| (D) | 4 | 0 | 4 |
| (C) | 2 | 0 | 2 |
| (B) | 0 | 0 | 0 |
| VERY POOR (-) (A) | 0 | 0 | 0 |
| ② HOW DO YOU EVALUATE THE SITE VISIT? | | | |
| VERY GOOD (+) (E) | 20 | 10 | 30 |
| (D) | 3 | 1 | 4 |
| (C) | 2 | 1 | 3 |
| (B) | 1 | 0 | 1 |
| VERY POOR (-) (A) | 0 | 0 | 0 |
| ③ HOW DO YOU EVALUATE THE LECTURES? | | | |
| VERY GOOD (+) (E) | 22 | 12 | 34 |
| (D) | 5 | 1 | 6 |
| (C) | 2 | 0 | 2 |
| (B) | 0 | 0 | 0 |
| VERY POOR (-) (A) | 0 | 0 | 0 |
| ④ HOW DO YOU EVALUATE THE GENERAL ADMINISTRATION AND MANEGEMENT? | | | |
| VERY GOOD (+) (E) | 25 | 12 | 37 |
| (D) | 5 | 0 | 5 |
| (C) | 0 | 1 | 1 |
| (B) | 0 | 0 | 0 |
| VERY POOR (-) (A) | 0 | 0 | 0 |

4 第三国研修終了時評価シート

I. コースニース

1) コースニースが確認された国:
 (制当国: アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、バルバドス、バハマ、ベリーズ、チリ、コロンビア、エクアドル、エル・サルヴァドル、グアテマラ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、トリニダット・トバゴ、ウルグアイ、ヴェネズエラ、キューバ<95年度追加>)
 2) コースニースの確認方法: 本コース評価調査報告書、実施機関コースレポート、実施機関及び研修員へのアンケート等

| 計画 | 第一回 (1993年度) | 第二回 (1994年度) | 第三回 (1995年度) | 第四回 (1996年度) | 第五回 (1997年度) |
|---------------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 1) 応募率 ア. 応募国数 制当国数 | 22 / 22 = 100% | 19 / 22 = 86.4% | 17 / 23 = 65.2% | 15 / 23 = 69.6% | 16 / 23 = 69.6% |
| イ. 応募者数 定員 (制当国) | 20 / 20 = 100% | 20 / 20 = 100% | 20 / 20 = 100% | 20 / 20 = 100% | 20 / 20 = 100% |
| 2) 定員充足率 ア. 研修員数 定員 | 22 / 22 = 100% | 21 / 22 = 95.5% | 20 / 22 = 90.9% | 15 / 22 = 68.2% | 31 / 22 = 140.9% |

II. コースの目標達成度

| 計画 | 第一回 (1993年度) | 第二回 (1994年度) | 第三回 (1995年度) | 第四回 (1996年度) | 第五回 (1997年度) |
|---|---|---|---|---|--|
| 1) 日本側 a) 研修生数 b) 専門家派遣 c) C/P受入 | a) 95,700(S) b) 佐々木 知子 (1994/3/4~1994/3/22) 小柳 武 (1994/3/4~1994/3/22) c) なし | a) 92,685(S) b) 大林 宏 (1994/7/19~1994/8/11) 荒木 龍彦 (1994/7/19~1994/8/11) c) なし | a) 80,467.47(S) b) 堀内 國広 (1995/7/26~1995/8/14) 佐伯 致子 (1995/7/19~1995/8/14) c) なし | a) 79,799.92(S) b) 北田 幹広 (1996/7/24~1996/8/13) 吉田 弘之 (1996/7/24~1996/8/13) c) なし | a) 81,038.05(S) b) 赤根 智子 (1997/7/26~1996/8/9) 田内 正宏 (1996/7/26~1996/8/17) c) なし |
| 2) コスタ・リカ側 a) 経費 b) 講師配置 c) 研修宿泊施設 | a) 約20,000(S) (コンピュータ・コピー機等の機材購入費) b) ILANUDがサブテーマを提案し、諸外国の関係機関から招へい c) 市内のホテル借り上げ | 同左 | 同左 | 同左 | 同左 |

| | | 第一回 (1993年度) | 第二回 (1994年度) | 第三回 (1995年度) | 第四回 (1996年度) | 第五回 (1997年度) |
|------------------|---|---|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 2. アソシエートの達成状況 | | | | | | |
| 計 画 | | | | | | |
| 1) 研修員受入数 (内実施国) | 22名 (2名) | 25名 (2名) | 21名 (3名) | 20名 (2名) | 18名 (2名) | 31名 (11名) |
| 2) 知識修得状況 | <p><アンケート結果概要></p> <p>評価調査派遣前に、93-96年度の参加研修員 (84名) にアンケートを実施した。46名回収、回収率54.8%</p> <p>①薬物犯罪の現状認識 回答数42名中、39名がVERY MUCHと回答</p> <p>②薬物問題の原因の分析 回答数46名中、37名がVERY MUCHと回答</p> <p>③各国の薬物問題対策の現状 回答数42名中、38名がVERY MUCHと回答</p> <p>④薬物問題とその対策に係わる情報交換の程度 回答数43名中、35名がVERY MUCHと回答</p> <p><インタビュー結果概要></p> <p>現地調査中、今年度参加研修員 (26名) 及びコスタ・リカの参加研修員 (6名) にインタビューを実施した。結果等は下記のとおり。 域内各国の薬物問題に深刻な状況にもかわらず、情報交換の場が少ない現状にある。本研究において、麻薬犯罪に係わる多くの情報・知識を得ることができ、また、薬物問題に関する対策の分析・認識を深めることにより、各参加者の視野が広がり、総じて有益であった。</p> | <p><アンケート結果概要></p> <p>①研修で取得した知識の活用状況について、回答数42名中、38名が活用を行っていると回答。具体的には、下記のとおり。 実現可能な効果的対策の策定促進 14名、麻薬犯罪に係わる域内及び国際協力の戦略策定の実施 11名、その他 13名</p> <p>②研修で取得した知識の普及状況について、回答数31名中、全員が普及を行っていると回答。具体的には、下記のとおり。(複数回答有)</p> <p>同僚への知識伝達 27名、所属機関への報告 23名、他の関係機関への講義等 14名、出版物製作 13名、その他 7名</p> <p>③知識の活用・普及の障害について、回答数43名中、18名が何らかの障害有りと回答。具体的には、下記のとおり。(複数回答有)</p> <p>認識された人材不足 7名、施設不足 3名、予算不足 12名、その他 4名</p> | | | | |
| 3) 研修成果の活用普及状況 | <p>①現実的かつ効果的対策の検討</p> <p>②薬物問題対策の域内及び国際的政策の案出</p> | <p><インタビュー結果概要></p> <p>知識・情報の活用・普及を積極的にを行い、薬物犯罪の防止、調査、裁判等に活用するとともに、情報交換のネットワーク作りに役だっている旨の意見が出され、更には、立法作業をする際にも積極的に活用していきたい旨の意見が出された。</p> <p>各国の法制、組織、国際取り極め等の面において、本研修のみが要因になっているものとは言えないもの、薬物関連法規の策定、改正、強化、国際取り極めの締結等の動きが見られ、本研修もこれらの動きを推進する要因の一つになっている旨の発言があった。</p> <p>地方、コスタ・リカの研修員からは、研修の成果に高い関心が一般に広く普及することの難しさ、また、国内外のつながりを維持できない等の意見が出された。</p> | | | | |

III. 計画の妥当性

| | 計画 | 第一回 (1993年度) | 第二回 (1994年度) | 第三回 (1995年度) | 第四回 (1996年度) | 第五回 (1997年度) |
|--------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1.到達目標 | 1) 域内の薬物犯罪の現状認識 2) 薬物問題の原因と効果的対策に必要な要因の分析 3) 各国の薬物問題対策の現状分析 4) 薬物問題とその対策に係わる層級交換 5) 現実的かつ効果的対策の検討 6) 薬物問題対策の域内及び国際的政策の案出 | 変更無し | 変更無し | 変更無し | 変更無し | 変更無し |

| | 第一回 (1993年度) | 第二回 (1994年度) | 第三回 (1995年度) | 第四回 (1996年度) | 第五回 (1997年度) |
|-------------------|---|---------------|----------------|---------------|---------------|
| 計画 | 1994/3/7～3/18 | 1994/7/23～8/5 | 1995/7/31～8/11 | 1996/7/29～8/9 | 1997/7/28～8/8 |
| 2.研修期間・時期 | 約2週間 | | | | |
| 3.資格要件 | <p>1. 各国政府から推薦された者</p> <p>2. 55歳以下の者</p> <p>3. 大卒又は同等の学歴を有する者</p> <p>4. 刑事司法関係者又は薬物犯罪の防止やコントロールの仕事を担う者</p> <p>5. 関連分野での5年以上の実務経験を有する者</p> <p>6. 政策決定レベルの高官である者</p> <p>7. スペイン語の会話、読み書きに堪能な者</p> <p>8. 心身ともに健康な者</p> | | | | |
| 4.定員・割当国 | <p>今アムステルダムでは、7カ国が新たに割当国となり、域内はもとどのくに研修参加の機会が与えられた。96年度を除き、応募者が定員を上回り、毎年には定員数とおりの参加があった。研修成果が十分上がっていることからしても、定員・割当国はほぼ妥当であったと考える。</p> | | | | |
| 5.カリキュラム (サブ・テーマ) | <p>毎年、サブテーマを設定した上で、個別発表・専門家講義・グループワーク・全体討議等を実施</p> <p>各年のサブテーマは左記のとおり</p> | | | | |
| 6.講師陣 | <p>日本人専門家 2名 外部講師 5名</p> <p>専門家 2名 外部講師 2名</p> <p>専門家 2名 外部講師 2名</p> <p>専門家 2名 外部講師 1名</p> <p>専門家 2名 外部講師 4名</p> | | | | |
| 7.経費負担の割合 | <p>計画通り実施された</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> | | | | |
| | <p>約2週間の期間は、テーマの大きさ等を勘案すると短い嫌いはあるが、参加者が各国で重要な職を有していることからすると、これ以上長期化することは困難であり、期間や時期の設定は適切であった。</p> <p>カリブ諸国は、英語が母国語であり、本研修には同時通訳が配属されたことから、7. については、スペイン語又は英語の会話、読み書きに堪能な者とするべきであった。</p> | | | | |

IV. 研修実施体制

| | 計画 | 第一回 (1993年度) | 第二回 (1994年度) | 第三回 (1995年度) | 第四回 (1996年度) | 第五回 (1997年度) |
|------------|---|--|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 実施機関 | <p>国連ラテンアメリカ犯罪防止研究所 (INSTITUTO LATINOAMERICANO DE NACIONES UNIDAS PARA LA PREVENCIÓN DEL DELITO Y TRATAMIENTO DEL DELINCUENTE: I L A N U D)</p> <p>1975年11月にコスタ・リカの首都サン・ホセに設立された国際機関である。コスタ・リカ政府からは独立した組織であり、設立以来、域内諸国を対象とした多くの研修・セミナーを実施してきており、本研修以外にも1年で約20のプログラムを実施している。</p> | | | | | |
| 2. 業務運営体制 | <p>コスタ・リカ外務省: 1) 親当国へのG.I.配布、2) 応募申込書の受理、ILANUDへの送付、3) 親当国への選考結果通知 ILANUD: 1) カリキュラム作成、2) G.I.印刷・作成、3) 講師の配置、4) 研修費の提供、5) 研修員の選考及び結果通知、6) 研修員の宿泊場所の手配、7) 航空券の手配、空港送迎、8) 研修旅行の手配、9) 必要な経費で日本側が負担しない部分の手配、10) 修了証書の発給、11) コースの評価及び報告書の提出、12) 精算報告書の提出、13) コースに関連する諸問題の調整</p> <p><特記事項> G.I.については、本研修のコーディネーターの任期期間が十分でないことから、毎回研修開始の60日前に送付していた。また、外交チャネルのみの募集では時間的な余裕がないこともあり、97年度では外交チャネルと平行して、直接、親当国関係機関にもG.I.を送付した。</p> <p>親当国23カ国より20名を選出するため、各国に1名の参加者を推薦したが、開始間近になって辞退者が出ることもあり、97年度からは、各国2名優先席を付して応募してもらい、分野・職務等のバランスを考慮した人選を行った。</p> <p>研修終了後、30日以内に提出されるべきコースレポートが、96年度まではすべて期限内に提出されていなかった。 97年度については、提出時期を守ること及び領収書等の証拠書類の保管の徹底について、調査団から要請した。</p> | | | | | |
| 3. コース運営体制 | <p>1) 講師 2) 研修施設 3) 通訳・教材状況 4) カリキュラム見直しの状況</p> | <p>1) 講師の多くは外部より招へいする形で行われ、特段の問題は無かった。 2) ILANUDの施設を使用したこともあったが、宿泊するホテルとの移動に時間がかかり、研修スケジュールに支障が生じることもあったため、93・96及び97年度については、研修員が宿泊するホテルの施設を使用した。参加者の数から研修会場のスペースに問題は無かった。 3) 西語-英語の同時通訳者2名が参加者の発言を同時通訳した。特に、英語圏であるカリブ諸国からの参加者にとって有益であった。同時通訳のための室内無線機材は、十分活用されていた。 4) 研修機関の実施したアンケート及び評価会の結果に基づき、業務問題に関係する広範な諸問題を順次取り上げて翌年度のサブテーマを設定した。サブテーマの設定は、概ね適切であった。 サブテーマに関連して、個別発表、専門家講演、全体討論を行うスタイルを取った。時間的な制約からグループワークに割く時間が少なく、かつ各参加者の準備も十分でないため、議論の深まりが少くない嫌いがあった。</p> | | | | |

5 第1フェーズ実施概要

1. 研修開始に至る経緯

- (1) コンタクトミッション調査：1988年4月9日～1988年4月18日
1986年9月にコスタリカ政府から出された要請について、その背景、研修の必要性及び意義、実施可能性等の調査を行った。
- (2) 実施協議調査：1988年7月24日～8月6日
研修実施に当たっての詳細調整、R/Dの作成及び署名を行った。

2. 第1フェーズ概要及び実績

協力期間：1988年度～1992年度（5年間）

研修目的：ラテンアメリカ及びカリブ諸国における薬物の生産、使用、売買、収益金の隠蔽工作にかかる問題の現状把握、理論・実践両面での防止対策の検討と併せ域内での効果的な解決方法の提案を行なう。

- 到達目標：(1) 域内の薬物犯罪の現状認識
(2) 薬物問題の原因と効果的対策に必要な要因の分析
(3) 各国の薬物問題対策の現状分析
(4) 薬物問題とその対策に係わる情報交換
(5) 現実的かつ効果的対策の検討
(6) 薬物問題対策の域内及び国際的政策の案出

定員：22名

割当国：アルゼンティン、ボリヴィア、ブラジル、コロンビア、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、トリニダット・トバコ、ヴェネズエラ、（コスタ・リカ 2名）

研修タイプ：約2週間のセミナー形式とし、個別発表・専門家講義・グループワーク・研修旅行・全体討議で構成されている。

研修実績：第1回 1989年 3月 6日～1988年 3月18日
第2回 1989年11月26日～1989年12月 9日
第3回 1990年 7月16日～1990年 7月27日
第4回 1991年 7月15日～1991年 7月27日
第5回 1992年 7月20日～1992年 8月 1日

参加実績：

| | 周辺国 | コスタリカ | 合計 |
|-----|-----|-------|-----|
| 第1回 | 18 | 4 | 22 |
| 第2回 | 20 | 5 | 25 |
| 第3回 | 20 | 8 | 28 |
| 第4回 | 20 | 7 | 27 |
| 第5回 | 20 | 9 | 29 |
| 計 | 98 | 33 | 131 |

専門家派遣：第1回～4回 2名
第5回 1名
計9名

専門家本邦所属先：国連アジア極東犯罪防止研修所

C/P研修受入：計2名

3. 終了時評価調査

派遣時期：1992年7月27日～8月10日

団員構成：国連アジア極東犯罪防止研修所次長 中島浩

JICA研修事業部研修第2課 中野勉

調査結果要旨：(1) 研修実施機関が域内諸国全域をカバーする国連の地域研修所であることから域内諸国の刑事司法当局から大きな信頼を得ており、多くの国から高官（最高裁判事、関係省庁次官・局長等）の参加が得られた。

(2) コスタリカ政府も本研修に大きな意義を認め、本研修の開講式に大統領が列席し、また、司法大臣自ら本研修の討論会に出席する等、最大限に協力していることが認められた。

(3) 本研修には、コスタリカを初めとして自費による参加者も多く、研修に対する期待の高さが伺える。

JICA